

| | | |
|---|---|--------------------------------|
| 清 寛君 | 菊池 良一君 | 第七部選出 豫算委員 山本儀重君 (大麻唯男君補) |
| 川橋豐治郎君 | 宮古啓三郎君 | 絲價安定融資擔保生絲買收法案 (政府提 出)外一件委員 |
| 西方 利馬君 | 木暮武太夫君 | 一昨八日委員長及理事五選ノ結果左ノ如シ |
| 加藤 知正君 | 山本 慎平君 | 裁判所構成法中改正法律案 (政府提出)外 |
| 森田 福市君 | 王井 権大君 | 一件委員 |
| 大石 倫治君 | 河野 一郎君 | 一昨八日委員長及理事五選ノ結果左ノ如シ |
| 佐竹直太郎君 | 砂田 重政君 | 裁判所構成法中改正法律案 (政府提出)外 |
| 長田 桃藏君 | 熊谷 嶽君 | 一昨八日決算小委員ノ異動左ノ如シ |
| 實岡半之助君 | 庄 晋太郎君 | 解任谷原 公君 |
| 大本貞太郎君 | 森 肇君 | 補闕田中祐四郎君 |
| 松本 忠雄君 | 木檜三四郎君 | 解任松尾 四郎君 |
| 高橋 守平君 | 原 淳一郎君 | 補闕中村三之丞君 |
| 三宅 磐君 | 小山邦太郎君 | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 林 平馬君 | 杉山元治郎君 | 議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 一去七日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ 昭和七年法律第一號中改正法律案 (満洲 事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關 事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關 スル件) (政府提出) 外一件委員 | 衆議院議員選舉法中改正法律案 (清瀬一 郎君提出) 委員 | ス、日程第一、手形法案ノ第一讀會ヲ開キ |
| 辭任福田闕次郎君 補闕中野 寅吉君 關稅定率法中改正法律案 (政府提出) 外一 件委員 | 理事 青木雷三郎君 柳田宗一郎君 | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 辭任今井 健彦君 補闕高橋熊次郎君 一昨八日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如シ 第三部選出 | 理事 藤井 達也君 加藤鎌五郎君 | ○議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 豫算委員 川崎克君 (鈴木富士彌君補 闕) | 清水徳太郎君 | 解任谷原 公君 |
| 第四部選出 | 木暮武太夫君 西方 利馬君 | 補闕田中祐四郎君 |
| 豫算委員 長島隆二君 (岡本一巳君補 闕) | 高橋 守平君 | 解任松尾 四郎君 |
| 第五部選出 | 加藤 知正君 | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 決算委員 池田秀雄君 (山本儀重君補 闕) | 小山邦太郎君 | 議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 第六部選出 | 理事 嶋山 武夫君 川橋豊治郎君 | 解任谷原 公君 |
| 豫算委員 佐藤正君 (松本忠雄君補闕) | 福島縣矢吹原國營開墾實施ニ關スル建議 | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 第六部選出 | 案 (中野寅吉君提出) 外一件委員 | 議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 豫算委員 後藤亮一君 (加藤鯛一君補 闕) | 委員長 大崎 清作君 | 解任谷原 公君 |
| 一昨八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ 關稅定率法中改正法律案 (政府提出) 外一 件委員 | 理事 嶋山 武夫君 川橋豊治郎君 | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 辭任津崎 尚武君 補闕高橋熊次郎君 | 第六條 為替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ 其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ 手形金額トス | 議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 豫算委員 後藤亮一君 (加藤鯛一君補 闕) | 第七條 為替手形ノ金額ヲ文字ヲ以テ又ハ數字 ヲ以テ重複シテ記載シタル場合ニ於テ 其ノ金額ニ差異アルトキハ文字ヲ以テ記載シタル場合ニ於テ 手形金額トス | 解任谷原 公君 |
| 第六部選出 | 第八條 手形ヲ振出ス者 (振出人) ノ署名 六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指 圖スル者ノ名稱 | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 豫算委員 第五部選出 | 四 滿期ノ表示 | 議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 豫算委員 第四部選出 | 五 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示 | 解任谷原 公君 |
| 豫算委員 第五部選出 | 六 支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ受クル者ヲ指 圖スル者ノ名稱 | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 豫算委員 第六部選出 | 七 手形ヲ振出ス日及地ノ表示 | 議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 豫算委員 第六部選出 | 八 手形ヲ振出ス者 (振出人) ノ署名 八 支拂ヲ爲スベキ地ノ表示 | 解任谷原 公君 |
| 豫算委員 第六部選出 | 九 第二條 前條ニ掲タル事項ノ何レカヲ缺 ク證券ハ爲替手形タル效力ヲ有セズ但 シ次ノ數項ニ規定スル場合ハ此ノ限ニ 在ラズ | マス 司法大臣小山松吉君 |
| 豫算委員 第六部選出 | 十 满期ノ記載ナキ爲替手形ハ之ヲ一覽拂 ノモノト看做ス | 議長 (秋田清君) 是ヨリ會議ヲ開キ |
| 豫算委員 第六部選出 | 十一 支拂人ノ名稱ニ附記シタル地ハ特別ノ 表示ナキ限り之ヲ支拂地ニシテ日支拂 | 解任谷原 公君 |

第八條 代理權ヲ有セザル者ガ代理人トシテ爲替手形ニ署名シタルトキハ自ラ

其ノ手形ニ因リ義務ヲ負フ其ノ者ガ支拂ヲ爲シタルトキハ本人、同一ノ権利ヲ有ス權限ヲ超エタル代理人ニ付亦同ジ

第九條 振出人ハ引受及支拂ヲ擔保ス

振出人ハ引受ヲ擔保セザル旨ヲ記載スルコトヲ得支拂ヲ擔保セザル旨ノ一切ノ文言ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

第十條 未完成ニテ振出シタル爲替手形ニ豫メ爲シタル合意ト異ル補充ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ違反ハ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ズ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ爲替手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限り在ラズ

第二章 裏書

第十一條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十二條 爲替手形ハ指圖式ニテ振出サザルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第十六條 爲替手形ノ占有者ガ裏書ノ連續ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ之ヲ適法ノ所持人ト看做ス最後ノ裏書が白地式ナル場合ト雖モ亦同じ抹消シタル裏書ハ此ノ關係ニ於テハ之ヲ記載セザルモノト看做ス白地式裏書ニ次デ他ノ裏書アルトキハ其ノ裏書ヲ爲シタル者ハ白地式裏書ニ因リテ手形ヲ取得シタルモノト看做ス

第十三條 裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル條件ハ之ヲ記載セザルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無效トス

持參人拂ノ裏書ハ白地式裏書ト同一ノ效力ヲ有ス

ニ在ラズ

第十四條 裏書ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ権利ヲ移轉ス

裏書ガ白地式ナルトキハ所持人ハ

一 自己ノ名稱又ハ他人ノ名稱ヲ以テ白地ヲ補充スルコトヲ得

二 白地式ニ依リ又ハ他人ヲ表示シテ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

三 白地ヲ補充セズ且裏書ヲ爲サズシテ手形ヲ第三者ニ譲渡スコトヲ得

第十五條 裏書人ハ反對ノ文言ナキ限り在ラズ

引受及支拂ヲ擔保ス

第十六條 裏書ニ「指圖禁止」ノ文字又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ヲ記載シタルトキハ其ノ證券ハ指名債權ノ譲渡ニ關スル方式ニ從ヒ且其ノ效力ヲ以テノミ之ヲ譲渡スコトヲ得

拂人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ爲シタル又ハ爲ザル支拂人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シテモ之ヲ得此等ノ者ハ更ニ手形ヲ裏書スルコトヲ得

第十七條 裏書ハ爲替手形又ハ之ト結合前項ノ規定ニ依リ其ノ權利ヲ證明スルトキハ手形ヲ返還スル義務ヲ負フコトナシ但シ所持人ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ之ヲ取得シタルトキハ此ノ限り在ラズ

第十八條 裏書ニ「回收ノ爲」、「取立ノ爲」、「代理ノ爲」其ノ他單ナル委任ヲ示ス文言アルトキハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ権利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ハ代理ノ爲ノ裏書ノミヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ債務者ガ所持人ニ對抗スルコトヲ得ル抗辯ハ裏書人ニ對抗スルコトヲ得ベカリシモノニ限ル

代理ノ爲ノ裏書ニ依ル委任ハ委任者ノ死亡又ハ其ノ者ガ無能力ト爲リタルコトニ因リ終了セズ

第十九條 裏書ニ「擔保ノ爲」、「質入ノ爲」ハ所持人ハ爲替手形ヨリ生ズル一切ノ権利ヲ行使スルコトヲ得但シ所持人ノノ效力ノミヲ有ス

債務者ハ裏書人ニ對スル人の關係ニ基ク抗辯ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ知リテ手形ヲ取得シタルトキハ此ノ限り在ラズ

第二十條 満期後ノ裏書ハ満期前ノ裏書作成後ノ裏書又ハ支拂拒絶證書作成期間過後ノ裏書ハ指名債權ノ譲渡ノ效力ノミヲ有ス

ト同一ノ效力ヲ有ス但シ支拂拒絶證書作成後ノ裏書又ハ支拂拒絶證書作成期間過後ノ裏書ハ指名債權ノ譲渡ノ效力ノミヲ有ス

第十一條 支拂人ハ第一ノ呈示ノ翌日ニ第二ノ呈示ヲ爲スベキコトヲ請求スルコトヲ得利害關係人ハ此ノ請求ガ拒絶證書ニ記載セラレタルトキニ限リ之ニ應ズル呈示ナカリシコトヲ主張スルコトヲ得

所持人ハ引受ノ爲ニ呈示シタル手形ヲ支拂人ニ交付スルコトヲ要セズ

第二十二條 引受ハ爲替手形ニ之ヲ記載スベシ引受ハ「引受」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ支拂人署名スペシ手形ノ表面ニ爲シタル支拂人ノ單ナル署名ハ之ヲ引受ト看做ス

一覽後定期拂ノ手形又ハ特別ノ記載ニ從ヒ一定ノ期間内ニ引受ノ爲ニ呈示ヲ爲スベキ手形ニ於テハ所持人ガ呈示ノスペシ引受ハ「引受」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ支拂人署名スペシ手形ノ表面ニ爲シタル支拂人ノ單ナル署名ハ之ヲ引受ト看做ス

ル場合ヲ除クノ外引受ニハ之ヲ爲シタ

ル日ノ日附ヲ記載スペキコトヲ請求シタ

署名スルコトヲ要ス

裏書ハ被裏書人ヲ指定セズシテ之ヲ爲

定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲之ヲ呈示ヲ得

第十二條 振出人ハ爲替手形ニ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲之ヲ呈示ヲ得

振出人ハ爲替手形ニ期間ヲ定メ又ハ定メズシテ引受ノ爲之ヲ呈示ヲ得

スベキ旨ヲ記載スルコトヲ得

振出人ハ手形ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ禁ズル旨ヲ記載スルコトヲ得但シ手形ガ第

三者方ニテ若ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂フベキモノナルトキ又ハ一覽後定期拂ナルトキハ此ノ限り在ラズ

第十三條 裏書ハ爲替手形ノ裏面又ハ補箋ニ之ヲ爲スニ非ザレバ其ノ效力ヲ有ス

ヲ有セズ

ノ記載ナキトキハ所持人ハ裏書人及振出人ニ對スル遡求權ヲ保全スル爲ニハ適法ノ時期ニ作ラシメタル拒絶證書ニ依リ其ノ記載ナカリシコトヲ證スルコトヲ要ス

第二十六條 引受ハ單純ナルベシ但シ支拂人ハ之ヲ手形金額ノ一部ニ制限スルコトヲ得

第二十七條 引受ニ依リ爲替手形ノ記載事項ニ加ヘタル他ノ變更ハ引受ノ拒絶タル效力ヲ有ス但シ引受人ハ其ノ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第二十八條 振出人ガ支拂人ノ住所地ト異ル支拂地ヲ爲替手形ニ記載シタル場合ニ於テ第三者方ニテ支拂ヲ爲スペキ旨ヲ定メザリシトキハ支拂人ハ引受ヲ爲スニ當リ其ノ第三者ヲ定ムルコトヲ得之ヲ定メザリシトキハ引受人ハ支拂地ニ於テ自ラ支拂ヲ爲ス義務ヲ負ヒタルモノト看做ス

手形ガ支拂人ノ住所ニ於テ支拂フベキモノナルトキハ支拂人ハ引受ニ於テ支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ定ムルコトヲ得

第二十九條 支拂人ハ引受ニ因リ滿期ニ於テ爲替手形ノ支拂ヲ爲ス義務ヲ負支拂ナキ場合ニ於テハ所持人ハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ依リテ請求人ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル直接ノ請求權ヲ有ス所持人ガ振出人ナルトキト雖モ亦同ジ

第三十條 引受ハ單純ナルベシ但シ支拂人ハ之ヲ手形金額ノ一部ニ制限スルコトヲ得ベキ一切ノ金額ニ付引受人ニ對シ爲替手形ニ引受ヲ記載シタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ拘ラズ支拂人ガ書面ヲ以テ所持人又ハ手形ニ署名シタル者ニ引

受ノ通知ヲ爲シタルトキハ此等ノ者ニ對シ引受ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第三十一條 保証ハ爲替手形又ハ補箋ニ之ヲ爲スペシ

保証ハ「保證」其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文字ヲ以テ表示シ保證人署名ス

第三十二條 保證人ハ保證セラレタル者

第三十三條 確定日拂、日附後定期拂又

第三十四條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ全部又ハ一部ニ付保證ニ依リ之ヲ擔保スルコトヲ得

第三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ第三者ハ前項ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ第三者ハ前項ノ保證ト同様者ト雖モ亦同ジ

第三十七條 保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無效ナルトキト雖モ之ヲ有效トス

第三十八條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第三十九條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第四十條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第四十一條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スペキヲ得債務者が支拂ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ滿期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ

ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得

第三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ満期ハ引受ノ日附又ハ拒絶證書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

第三十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ拒絶證書アラザル場合ニ於テハ日附ナキ引受ハ引受人ニ關スル限り引受ノ爲ノ呈示期間ノ末日ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十七條 保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有效トス

第三十八條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第三十九條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第四十條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第四十一條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スペキヲ得債務者が支拂ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ滿期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ

ノ手形ハ其ノ日附ヨリ一年内ニ支拂ノ爲之ヲ呈示スルコトヲ要ス振出人ハ此ノ期間ヲ短縮シ又ハ伸長スルコトヲ得

第三十五條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ満期ハ引受ノ日附又ハ拒絶證書ノ日附ニ依リテ之ヲ定ム

第三十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ拒絶證書アラザル場合ニ於テハ日附ナキ引受ハ引受人ニ關スル限り引受ノ爲ノ呈示期間ノ末日ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十七條 保證ハ其ノ擔保シタル債務ガ方式ノ瑕疵ヲ除キ他ノ如何ナル事由ニ因リテ無効ナルトキト雖モ之ヲ有效トス

第三十八條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第三十九條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第四十條 確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グ二取引日内ニ支拂ノ爲手形ヲ呈示スルコトヲ得

第四十一條 支拂地ノ通貨ニ非ザル通貨ヲ以テ支拂フベキ旨ヲ記載シタル爲替手形ニ付テハ滿期ノ日ニ於ケル價格ニ依リ其ノ國ノ通貨ヲ以テ支拂ヲ爲スペキヲ得債務者が支拂ヲ遲滞シタルトキハ所持人ハ其ノ選擇ニ依リ滿期ノ日又ハ支拂ノ日ノ相場ニ從ヒ其ノ國ノ通貨ヲ以テ爲替手形ノ金額ヲ支拂フベキコトヲ請求スルコトヲ得

外國通貨ノ價格ハ支拂地ノ慣習ニ依リ

之ヲ定ム但シ振出人ハ手形ニ定メタル換算率ニ依リ支拂金額ヲ計算スペキ旨ヲ記載スルコトヲ得前二項ノ規定ハ振出人ガ特種ノ通貨ヲ以テ支拂フベキ旨(外國通貨現實支拂文句)ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セズ振出國ト支拂國トニ於テ同名異價ヲ有スル通貨ニ依リ爲替手形ノ金額ヲ定メタルキハ支拂地ノ通貨ニ依リテ之ヲ定メタルモノト推定ス

第四十二條 第三十八條ニ規定スル期間内ニ爲替手形ノ支拂ノ爲ノ呈示ナキトキハ各債務者ハ所持人ノ費用及危險ニ於テ手形金額ヲ所轄官署ニ供託スルコトヲ得

第七章 引受拒絶又ハ支拂拒絶

ニ因ル遡求

第四十三條 満期ニ於テ支拂ナキトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得左ノ場合ニ於テハ満期前ト雖モ亦同ジ

一 引受ノ全部又ハ一部ノ拒絶アリタルトキ

二 引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ノ破産ノ場合、其ノ支拂停止ノ場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效ヲ奏セザル場合ニ

第四十四條 引受又ハ支拂ノ拒絶ハ公正證書(引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書)振出人ノ破産ノ場合

第一項ニ規定スル場合ニ於テ期間ノ末日ニ第一ノ呈示アリタルトキハ拒絶證書ハ共ノ翌日之ヲ作ラシムルコトヲ得

確定日拂、日附後定期拂又ハ一覽後定

期拂ノ爲替手形ノ支拂拒絶證書ハ爲替手形ノ支拂ヲ爲スペキ日又ハ之ニ次グス一覽拂ノ手形ノ支拂拒絶證書ハ引受拒絶證書ノ作成ニ關シテ前項ニ規定スル條件ニ從ヒ之ヲ作ラシムルコトヲ要ス

引受拒絶證書アルトキハ支拂ノ爲ノ呈示及支拂拒絶證書ヲ要セズ

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ支拂ヲ停止シタル場合又ハ其ノ財産ニ對スル強制執行ガ效ヲ奏セザル場合ニ於テハ所持人ハ支拂人ニ對シ手形ノ支拂ノ爲シ且拒絶證書ヲ行シタル後ニ非ザレバ其ノ遡求權ヲ行フコトヲ得ズ

引受ヲ爲シタル若ハ爲サザル支拂人ガ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ所持人ガ其ノ遡求權ヲ行フニハ破産決定書ヲ提出スルヲ以テ足ル

第四十五條 所持人ハ拒絶證書作成ノ日ニ次グ又ハ無費用償還文句アル場合ニ於テハ呈示ノ日ニ次グ四取引日内ニ自己ノ裏書人及振出人ニ對シ引受拒絶又ハ支拂拒絶アリタルコトヲ通知スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言トキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人之ヲ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書又ハ保證人ニ對シテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十六條 振出人、裏書人又ハ保證人ハ證券ニ記載シ且署名シタル「無費用償還」、「拒絶證書不要」ノ文句其ノ他の同一ノ意義ヲ有スル文言ニ依リ所持人ニ對シ其ノ遡求權ヲ行フ爲ノ引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除スルコトヲ得

前項ノ文言ハ所持人ニ對シ法定期間内ニ於ケル爲替手形ノ呈示及通知ノ義務ヲ免除スルコトナシ期間ノ不遵守ハ所持人ニ對シ之ヲ援用スル者ニ於テ其ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス

振出人ガ第一項ノ文言ヲ記載シタルトキハ一切ノ署名者ニ對シ其ノ效力ヲ生ズ裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言トキハ其ノ裏書人又ハ保證人ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生ズ振出人ガ此ノ文言ヲ記載シタルニ拘ラズ所持人ガ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其ノ費用ハ所持人之ヲ負擔ス裏書人又ハ保證人ガ此ノ文言ヲ記載シタル場合ニ於テ拒絶證書又ハ保證人ニ對シテ其ノ費用ヲ償還セシムルコトヲ得

第四十七條 爲替手形ノ振出、引受、裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ハ所持人ニ對

シ合同シテ其ノ責ニ任ズ所持人ハ前項ノ債務者ニ對シ其ノ債務ヲ負ヒタル順序ニ拘ラズ各別又ハ共同ニ請求ヲ爲スコトヲ得

爲替手形ノ署名者ニシテ之ヲ受戻シタルモノモ同一ノ権利ヲ有ス此ノ期間内ニ通知ヲ爲ス書面ヲ郵便ニ付シタル場合ニ於テハ其ノ期間内ニ通知ヲ爲サザル者ハ其ノ権利ヲ失フコトナシ但シ過失ニ因リテ生ジタル損害アルトキハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第四十八條 所持人ハ遡求ヲ受クル者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

一 引受又ハ支拂アラザリシ爲替手形ノ金額及利息ノ記載アルトキハ其ノ債務者一人ニ對スル請求ハ他ノ債務者ニ對スル請求ヲ妨げズ既ニ請求ヲ受ケタル者ノ後者ニ對シテモ亦同ジ

二 年六分ノ率ニ依ル満期以後ノ利息ノ他ノ費用

三 拒絶證書ノ費用、通知ノ費用及其利息

第四十九條 爲替手形ヲ受戻シタル者ハ其ノ前者ニ對シ左ノ金額ヲ請求スルコトヲ得

滿期前ニ遡求權ヲ行フトキハ割引ニ依リ手形金額ヲ減ズ其ノ割引ハ所持人ノ住所地ニ於ケル遡求ノ日ノ公定割引率(銀行率)ニ依リ之ヲ計算ス

一 共ノ支拂ヒタル總金額

二 前號ノ金額ニ對シ年六分ノ率ニ依リ計算シタル支拂ノ日以後ノ利息

三 共ノ支出シタル費用

第五十條 遅求ヲ受ケタル又ハ受クベキ債務者ハ支拂ト引換ニ拒絶證書、受取ヲ證スル記載ヲ爲シタル計算書及爲替手形ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

爲替手形ヲ受戻シタル裏書人ハ自己及後者ノ裏書ヲ抹消スルコトヲ得

第五十一條 一部引受ノ後ニ遡求權ヲ行フ場合ニ於テ引受アラザリシ手形金額ノ支拂ヲ爲ス者ハ其ノ支拂ノ旨ヲ手形ニ記載スルコト及受取證書ヲ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得又所持人ハ爾後ノ遡求ヲ爲スコトヲ得シムル爲手形

ノ證明謄本及拒絶證書ヲ交付スルコト

ヲ要ス

第五十二条 遷求權ヲ有スル者ハ反對ノ記載ナキ限り其ノ前者ノ一人ニ宛テ一覽拂シテ振出シ且其ノ者ノ住所ニ於

テ支拂フベキ新手形(戻手形)ニ依リ遷

求ヲ爲スコトヲ得

戻手形ハ第四十八條及第四十九條ニ規定スル金額ノ外其ノ戻手形ノ仲立料及

印紙稅ヲ含ム

所持人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ本手形ノ支拂地ヨリ前者ノ住住所地ニ宛テ振出ス一覽拂ノ爲替手形

ノ相場ニ依リ之ヲ定ム裏書人ガ戻手形ヲ振出ス場合ニ於テハ其ノ金額ハ戻手

形ノ振出人ガ其ノ住所地ヨリ前者ノ住所地ニ宛テ振出ス一覽拂手形ノ相場ニ依リ之ヲ定ム

第五十三条 左ノ期間ガ經過シタルトキハ所持人ハ裏書人、振出人其ノ他ノ債務者ニ對シ其ノ權利ヲ失フ但シ引受人ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

一覽拂又ハ一覽後定期拂ノ爲替手形ノ呈示期間ニ就き第一節 引受拒絶證書又ハ支拂拒絶證書ノ作成期間

二作成期間
三無費用償還文句アル場合ニ於ケル支拂ノ爲ノ呈示期間

振出人ノ記載シタル期間内ニ引受ノ爲ノ呈示ヲ爲サザルトキハ所持人ハ支拂拒絶及引受拒絶ニ因ル遷求權ヲ失フ但シ其ノ記載ノ文言ニ依リ振出人ガ引受ノ擔保義務ノミヲ免レントスル意思ヲ有シタルコトヲ知得ベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

裏書ニ呈示期間ノ記載アルトキハ此ノ裏書人ニ限り之ヲ援用スルコトヲ得
第五十四条 法定期間内ニ於ケル手形ノ呈示又ハ拒絶證書ノ作成ガ避クベカラザル障碍(國ノ法令ニ依ル禁制

其ノ他ノ不可抗力ニ因リテ妨ガラ

タルトキハ其ノ期間ヲ仲長ス

第二節 參加引受

ハ爲替手形ノ金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任ズ

第五十六条 參加引受ハ引受ノ爲ノ呈示

ヲ禁ゼザル爲替手形ノ所持人ガ満期前之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ他ニ付テハ第四十五条ノ規定ヲ準用ス

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遅滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシム

コトヲ要ス

第六十条 爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有

キ又ハ支拂地ニ住所ヲ有スル者ガ豫備

支拂人トシテ記載セラレタルトキハ所

持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ

且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシム

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遅

滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ

コトヲ要ス

第六十一条 爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有

キ又ハ支拂地ニ住所ヲ有スル者ガ豫備

支拂人トシテ記載セラレタルトキハ所

持人ハ此等ノ者ノ全員ニ手形ヲ呈示シ

且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシム

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遅

滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ

且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシム

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遅

滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ

且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシム

不可抗力ガ止ミタルトキハ所持人ハ遅

滞ナク引受又ハ支拂ノ爲手形ヲ呈示シ

且必要アルトキハ拒絶證書ヲ作ラシム

コトヲ要ス

第六十二条 參加支拂ハ被參加人ヲ表示ナシテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニシテ爲替手形ニ爲シタルモト認メズ

第五十七条 參加引受ハ被參加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ遅滞ナク引受又ハ支拂ノ爲替手形ニ之ヲ受諾スルトキハ被參加人及其ノ後者ニ對シ滿期前ニ遅滞ナク引受又ハ支拂ノ爲替手形ニ之ヲ受諾スルトキハ被參加人署名スベシ參加引受ニハ被參加人ヲ表示スペシ其ノ表示ナキトキハ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五十八条 參加引受人ハ所持人及被參加人ヨリ後ノ裏書人ニ對シ被參加人ト同一ノ義務ヲ負フ

第五十九条 參加引受人ハ所持人及被參加人ニ對シ第四十八條ニ規定スル金額ノ支拂ト引換ニ爲替手形ノ交付ヲ

第六十一条 參加支拂人ハ被參加人及其ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ニ裏書スルコトヲ得ズ

第六十二条 參加支拂ハ被參加人ヲ表示ナシテ爲替手形ニ爲シタル受取ノ記載ニシテ爲替手形ニ爲シタルモト看做ス

第六十三条 參加支拂人ハ被參加人及其ノ爲替手形上ノ債務者ニ對シ爲替手形ヨリ生ズル權利ヲ取得ス但シ更ニ爲替手形ニ裏書スルコトヲ得ズ

第六十四条 爲替手形ハ同一內容ノ數通

第六十五条 爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有

第六十六条 參加引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七条 參加引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十八条 參加引受人ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十九条 參加支拂ハ被參加人ヲ表示ナシテ爲替手形ニ爲シタルモト看做ス

第七十条 參加支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スペキ全額

第七十一条 參加支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スペキ全額

第七十二条 參加支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スペキ全額

第七十三条 參加支拂ハ被參加人ガ支拂ヲ爲スペキ全額

第七十四条 爲替手形ハ同一內容ノ數通

第七十五条 爲替手形ガ支拂地ニ住所ヲ有

一通限ニテ振出ス旨ノ記載ナキ手形ノ所持人ハ自己ノ費用ヲ以テ複本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ所持人ハ自己ノ直接ノ裏書人ニ對シテ其ノ請求ヲ爲シ其ノ裏書人ハ自己ノ裏書人ニ對シテ手續ヲ爲スコトニ依リテ之ニ協力シ願次振出人ニ及ブベキモノトス各裏書人ハ新ナル複本ニ裏書ヲ再記スルコトヲ要ス

第六十五條 複本ノ一通ノ支拂ハ其ノ支拂ガ他ノ複本ヲ無效ナラシム旨ノ記載ナキトキト雖モ義務ヲ免レシム但シ支拂人ハ引受ヲ爲シタル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ數人ニ各別ニ複本ヲ讓渡シタル裏書人及其ノ後ノ裏書人ハ其ノ署名アル各通ニシテ返還ヲ受ケザルモノニ付責任ヲ負フ

第六十六條 引受ノ爲複本ノ一通ヲ交付シタル者ハ他ノ各通ニ此ノ一通ヲ保持スル者ノ名稱ヲ記載スペシ其ノ者ハ他ノ一通ノ正當ナル所持人ニ對シ之ヲ引渡スコトヲ要ス

保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絶證書ニ依リ左ノ事實ヲ證スルニ非ザレバ請求權ヲ行フコトヲ得ス

一 引受ノ爲送付シタル一通ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコト

二 他ノ一通ヲ以テ引受又ハ支拂ヲ受クルコト能ハザリシコト

第二節 膳本

第六十七條 爲替手形ノ所持人ハ其ノ膳本ヲ作ル權利ヲ有ス膳本ニハ裏書其ノ裏書人ハ其原本ニ掲ゲタル一切ノ事項ヲ正確ニ再記シ且其ノ末尾ヲ示スコトヲ要ス

膳本ニハ原本ト同一ノ方法ニ從ヒ且同一ノ效力ヲ以テ裏書又ハ保證ヲ爲スコトヲ得

第六十八條 膳本ニハ原本ノ保持者ヲ表

第七十二條 滿期ガ法定ノ休日ニ當ル爲替手形ハ之ニ次グ第一ノ取引日ニ至ル迄迄其ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ズ又爲

示スペシ保持者ハ膳本ノ正當ナル所持人ニ對シ其ノ原本ヲ引渡スコトヲ要ス保持者ガ引渡ヲ拒ミタルトキハ所持人ハ拒絶證書ニ依リ原本ガ請求ヲ爲スモ引渡サレザリシコトヲ證スルニ非ザレバ膳本ニ裏書又ハ保證ヲ爲シタル者ニ對シ迴求權ヲ行フコトヲ得ズ

膳本作成前ニ爲シタル最後ノ裏書ノ後ニ「爾後裏書ハ膳本ニ爲シタルモノノミ效力ヲ有ス」ノ文句其ノ他之ト同一ノ意義ヲ有スル文言ガ原本ニ存スルトキハ原本ニ爲シタル其ノ後ノ裏書ハ之ヲ無效トス

第六十九條 為替手形ノ文言ノ變造ノ場合ニ於テハ其ノ變造後ノ署名者ハ變造シタル文言ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ變造前ノ署名者ハ原文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第七十條 引受人ニ對スル爲替手形上ノ請求權ハ満期ノ日ヨリ三年ヲ以テ时效ニ罹ル

所持人ノ裏書人及振出人ニ對スル請求權ハ適法ノ時期ニ作ラシタル拒絶證書ノ日附ヨリ、無費用償還文句アル場合ニ於テハ満期ノ日ヨリ一年ヲ以テ时效ニ罹ル

第三者方ニテ又ハ支拂人ノ住所地ニ非ザル地ニ於テ支拂ヲ爲スペキ爲替手形（第四條及第二十七條）、利息ノ約定（第五條）、支拂金額ニ關スル記載ノ差異（第六條）、第七條ニ規定スル條件ノ下ニ爲サレタル署名ノ效果、權限ナクシテ又ハ之ヲ超エテ爲シタル者ノ署名ノ效果（第八條）及白地爲替手形（第十條）ニ關スル規定モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス

保證ニ關スル規定（第三十條乃至第三十二條）モ亦之ヲ約束手形ニ準用ス第三十一條末項ノ場合ニ於テ何人ノ爲ニ保證ヲ爲シタルカヲ表示セザルトキハ約束手形ノ振出人ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

滿期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

振出地ハ特別ノ表示ナキ限リ之ヲ支拂限ニ在ラズ

滿期ノ記載ナキ約束手形ハ之ヲ一覽拂ノモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ約束手形ハ振出人ノ名稱ニ附記シタル地ニ於テ之ヲ振出シタルモノト看做ス

第七十八條 約束手形ノ振出人ハ爲替手形ノ引受人ト同一ノ義務ヲ負フ

一覽後定期拂ノ約束手形ハ第二十三條ニ規定スル期間内ニ振出人ノ一覽ノ爲ノモト看做ス

第七十九條 約束手形ニ一覽ノ旨ノ記載シテ署名シタル日ヨリ進行ス振出人ガ日附アル一覽ノ旨ノ記載ヲ拒ミタルトキハ拒絶證書ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ要

(第二十五條)其ノ日附ハ一覽後ノ期間ノ初日トス

附則

第七十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十條 商法第四編第一章乃至第三章及商法施行法第一百二十四條乃至第一百二十六條ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第八十一條 本法施行前ニ振出シタル爲替手形及約束手形ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

第八十二條 本法ニ於テ署名トアルハ記名捺印ヲ含ム

第八十三條 第三十八條第二項(第七十七條第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ手形交換所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第八十四條 拒絶證書ノ作成ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 爲替手形又ハ約束手形ヨリ生ジタル權利ガ手續ノ欠缺又ハ时效ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ持人ハ振出人、引受人又ハ裏書人ニ對シ其ノ受取ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八十六條 裏書人ノ他ノ裏書人及振出人ニ對スル爲替手形上及約束手形上ノ請求權ノ消滅時效ハ其ノ者ガ訴ヲ受ケタル場合ニ在リテハ前者ニ對シ訴訟告知ヲ始ム

第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第八十八條 爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依

リ之ヲ定ム其ノ國ノ法律ガ他國ノ法律ニ依ルコトヲ定ムルトキハ其ノ他國ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲タル法律ニ依リ能力ヲ有セザル者ト雖モ他ノ國ノ領域ニ於テ署名ヲ爲シ其ノ國ノ法律ニ依レバ能力ヲ有ス

ベキトキハ責任ヲ負フ

第八十九條 爲替手形上及約束手形上ノ行爲ノ方式ハ署名ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

爲替手形上及約束手形上ノ行爲ガ前項ノ規定ニ依リ有效ナラザル場合ト雖モ

後ノ行爲ヲ爲シタル地ノ屬スル國ノ法律ニ依レバ適式ナルトキハ後ノ行爲ハ

前ノ行爲ガ不適式ナルコトニ因リ其ノ效力ヲ妨げラルコトナシ

日本人ガ外國ニ於テ爲シタル爲替手形上及約束手形上ノ行爲ハ其ノ行爲ガ日

本ノ法律ニ規定スル方式ニ適合スル限

第九十條 爲替手形ノ引受人及約束手形ノ振出人ノ義務ノ效力ハ其ノ證券ノ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ニ掲タル者ヲ除キ爲替手形又ハ約束手形ニ依リ債務ヲ負フ者ノ署名ヨリ付證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十一條 爲替手形ノ所持人ガ證券ノ振出ノ原因タル債權ヲ取得スルヤ否ヤハ證券ノ振出地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十二條 爲替手形ノ引受ヲ手形金額ノ一部ニ制限シ得ルヤ否ヤ及所持人ニ

一部支拂ヲ受諾スル義務アリヤ否ヤハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ因リテ中斷シタル時效ハ裁判ノ確定シタル時ヨリ更ニ其ノ進行知ヲ爲スニ因リテ中斷ス

第八十七條 本法ニ於テ休日トハ祭日、祝日、日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ヲ謂フ

第八十八條 爲替手形及約束手形ニ依リ義務ヲ負フ者ノ能力ハ其ノ本國法ニ依

第九十三條 拒絶證書ノ方式及作成期間ノ他爲替手形上及約束手形上ノ権利行使又ハ保存ニ必要ナル行爲ノ方式ハ拒絶證書ヲ作ルベキ地又ハ其ノ行爲ヲ爲スベキ地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

第九十四條 爲替手形又ハ約束手形ノ喪失又ハ盜難ノ場合ニ爲スペキ手續ハ支拂地ノ屬スル國ノ法律ニ依リ之ヲ定ム

○國務大臣小山松吉君登壇

國務大臣小山松吉君登壇

馬シタ手形法案ニ付テ御説明ヲ致シマス、政府ニ於キマシテハ、現行商法中時勢ノ進

運ニ伴ヒマシテ改正ヲ要スベキモノアリト認メマシテ、曩ニ其要綱ヲ如何ニスペキカト云フコトヲ、法制審議會ニ諮問致シタノ

スル條約ノ附屬書トナツテ居リマスル手形

デアリマスガ、其中爲替手形及約束手形ニ關スル規定ニ付キマシテハ、同會ニ於テ之

ヲ爲替手形及約束手形ニ關シ統一法ヲ制定

スル旨ノ答申ガアッタノデアリマシタ、此手形

統一法ヲ制定スル條約ナルモノハ、如何ナ

ノ決議ガアリマシテ、法制審議會總裁ヨリ

トスル條約ノ附屬書トナツテ居リマス、我國ト致

シマシテハ、曩ニ「ヘーベ」ノ手形法規統一

スルモノデアルカト云フコトヲ申シマスル

ト、此條約ハ一昨年、即チ昭和五年ノ國際

聯盟招聘ノ下ニ開カレマシタ手形及小切手

統一法ヲ制定スル協定ナルモノハ、如何ナ

トスルモノデアルカト云フコトヲ申シマスル

ト、此條約ハ一昨年、即チ昭和五年ノ國際

アリマシテ、其後多年歐洲各國並ニ我國ニ於テモ研究致シテ居リマシタ手形統一規則ト云フモノヲ骨子ト致シマシテ、之ニ多少修正ヲ加ヘタ程度ノモノデアリマシテ、ソレ

ノ実際上ニ於テモ、理論上ニ於テモ優レタ點

ガ専クナイノデアリマス、仍テ政府ハ右手

形統一法ニ基キマシテ、司法省内ニ委員會ヲ設ケ、慎重ニ調査審議ヲ重ネマシタ結果、

手形法案ノ脱稿ヲ見タノデアリマス、尙ホ右「ジュネーブ」ノ條約ニハ、各國が批准ヲ

爲シ得ベキ期限ガ定メテアリマシテ、ソレハ一千九百三十二年、即チ本年ノ八月三十一日迄デアリマシテ、且ツ其條約ノ效力ガ發生スル爲ニハ、國際聯盟理事會ニ常任代表者ヲ出シテ居リマス聯盟國ノ、三箇國ヲ包含致シマシテアル七箇國ノ批准又ハ加入ガアルコトヲ必要トシテ居リマスカラ、聯盟理事會ノ常任代表者ヲ出シテ居リマス、我國ト致シマシテハ、曩ニ「ヘーベ」ノ手形法規統一

萬國會議以來直チニ研究ヲ重ネテ、漸ク共期限ノ定メアル關係ヨリ致シマシテ、今議會ニ本法案ヲ提出シタ次第デアリマス

本法案ハ我ガ現行商法第四編中ノ、爲替手形及約束手形ノ規定ノ部分ニ代ハルモノ

ニ成程ヲ見マシタ所ノ手形統一ノ事業ニ付キマシテ、國際的ニ協力シテ行ク上ニモ、責任ノアル立場ニアリマスルノデ、右批准ヲ必

トスル條約ノ附屬書トナツテ居リマス、我國ト致シマシテハ、曩ニ「ヘーベ」ノ手形法規統一

スルモノデアルカト云フコトヲ申シマスル

ト、此條約ハ一昨年、即チ昭和五年ノ國際

聯盟招聘ノ下ニ開カレマシタ手形及小切手

統一法ヲ制定スル協定ナルモノハ、如何ナ

トスルモノデアルカト云フコトヲ申シマスル

ト、此條約ハ一昨年、即チ昭和五年ノ國際

聯盟招聘ノ下ニ開カレマシタ手形及小切手

統一法ヲ制定スル協定ナルモノハ、如何ナ

是ト姉妹關係ニアリマスル手形ニ關シ、法律ノ或ル牴觸ヲ解決スル爲ノ條約ニ基クノデアリマス。本法案第一編、第二編ノ部分ニ於テ、我ガ現行商法ヨリ優レテ居ル點ノ尠クナイト云フコトヲ申上ゲマシタガ、其極ク主要ナルモノヲ申シマスレバ、手形上ノ前者ニ對スル遡水ニ付キマシテ、擔保請求ト償還請求ノニツノ權利ヲ認メルコトナク、償還請求ノ一つノ權利ノミヲ認メタコト、一覽拂及一覽後定期拂ノ手形ニ利息文句ヲ認メタコト、質入裏書ヲ認メタコト、手形交換所ニ於ケル手形ノ呈示ニ、支拂呈示タルノ效力ヲ認メタコト、不可抗力ノ場合ニ遡求權保全行爲ノ期間ノ仲長ヲ認メタコト等デアリマスガ、此等ノ詳細ニ付キマシテハ、何レ特別委員會ニ於キマシテ、御説明致ス機會ガアラウト存ジマス、何卒慎重御審議ノ上、速ニ御協賛アランコトヲ切望致シマス（拍手）

○議長（秋田清君） 本案ニ對スル質疑ヲ許
〔原夫次郎君登壇〕

○原夫次郎君 諸君、私ハ只今議題ト相成テ居ル手形法ノ問題ニ付キマシテ、條約ト法律トノ關係ニ付イテ、國務大臣ニ質疑ヲ試ミントスルモノデアリマス、大體司法大臣カラ提案ノ理由ヲ御説明ニ相成リマシタ如ク、併ナガラ說イチ審カデハナカッタノデアリマスルガ、此提案ニ相成タ手形法ノ改正ハ、實ニ我ガ商法ノ大變革デアリマス、現行商法ノ中デ最モ特殊ノ規定ヲ有スル所ノ手形法ニ關スル規定ハ、其重大ナル改正ヲ爲サントセラレル趣意何處ニアルカト申シマシタナラバ、私共ノ了解致シテ居ル所ニ依リマスト、一昨年ノ六月七日——貴族院ノ司法大臣ノ御説明ニ依ルト、條約ヲ調印致シタノガ、一昨年ノ九月五日トアリマスケレドモ、此條約文ノ原文ヲ見マスルト、一昨年ノ六月七日ニ調印ニ相成テ

居ルヤウデアリマスルガ、兎ニモ角ニモ一テ、我ガ帝國全權ガ爲替手形及約束手形ニ關シテ、統一法ヲ制定スル所ノ國際條約ニ出發ヲ致シテ居ルノハ明カデアリマス、即チ此統一法ノ條約ニ於キマシテハ、未ダ曾テ見ザル所ノ條約ノ規定方デアリマシテ、此條約ニハ第一附屬書ナルモノト、第二附屬書ナルモノガク付イテ居リマシテ、第一附屬書ニ於キマシテハ、第一條乃至第七十八條マデノ規定ヲ致シテ居ル、全ク爲替手形及約束手形ノ方法規定自體ヲ、總テ之ニ網羅ヲ致シテ居ル所ノ所謂統一法デアリマス、次イデ又第二附屬書ナルモノヲ附加致シマシテ、是ハ第一條カラ第二十二條ニ瓦ツテ居ルモノデアリマスルガ、茲ニ色々ナ留保規定ヲ設ケマシテ、各國ガ此條約ヲ批准スル場合ニ於テハ、此第二附屬書ノ中カラ留保スペキ條文ヲ選擇致シテ、批准ヲ爲シテ宜シト云フ規定ニ相成テ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、此條約ノ本體カラ申シマシタナラバ、各國ニ於テ國內法デ制定ヲ致ス所ノ法律ヲ國際會議ニ於テ直接ニ規定ヲ設ケテ、而シテ條約ニ依リテ各國ガ皆此國際條約ニ規定シタル所ノ法律ヲ、其儘各國ニ之ヲ制定セントスル所ノ條約デアリマス、即チ只今提案セラレタル所ノ手形法ハ、全ク此條約附屬書ノ翻譯ガ、茲ニ提案セラレタモノト見コトガ至當デアリマス、斯ノ如キ立法ノ歴史カラ申シタナラバ、私茲ニ我國ノ條約ト法律トノ關係ニ付テ、我ガ憲法上ノ問題トシテ、責任アル内閣國務大臣カラ言明ヲ得タイノデアリマス

大體私ハ此點ニ向テ四箇ノ質疑ヲ試みテ居ルモノデアリマスルガ、其第一ニハ、言フマデモナク憲法ニ於テハ、天皇ノ大權事項、臣民ノ権利義務ニ關スル法律事項ニ分類ガ致シテアリマスルガ、而モ、我國ノ天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ル所ノ法律ノ提案ヲ致スノアルカ、或ハ又條約ハ條約トシテ、権密

カラ、法律ニ致シテモ、條約ノ締結權ニ致ト云フ方途ニ出デラル、ノデアルカ、而シテ條約ヲ締結セラレタ後ニ於テ——條約ヲ准テ來ルニ相違ナインデアリマスカラ、私ハ此場合ニ於テ責任アル國務大臣カラ御答辯ヲ得テ置キタイノデアリマス
第二ニハ、若シ斯ノ如ク條約ハ條約ヲ批准ヲセラレナケレバナラヌ、國內法ハ國內法デ帝國議會ノ議ヲ經ナケレバナラヌト云カ、此條約ヲ置カル、場合ニ於キマシテハ、若シ色々ナル事情上カラ、此法律ヲ准テセラレナケレバナラヌト云カ、此條約ヲ經ナケレバ締結スルコトハ國ノ議會ノ議ヲ經ナケレバ締結スルコトハ國ノ國民ニ直接権束力ヲ持ツ所ノ條約ガアルノデアリマスカラ、總テノ條約ハ、皆其國ガ多イノデアリマスケレドモ、我國ニ於テハサウデハナイノデアリマス、是ニ於テカ、此條約ノ大權事項カラ見マシタナラバ、天皇ハ此度ノ此統一法ニ關スル條約ニ於キマシテモ、其條約ヲ御批准ニ相成リ、而モ我國ノ明治四十年ニ公布セラレマシタル公式令ニ依リテ、國民ニ之ヲ公布致サレタル場合ニ於テハ、國民ハ其條約ニ對シテ法律ト同様ナル服從ノ義務ヲ有シ、権束力ヲ持ツノハ當然デアリマス、斯ノ如キ條約ノ關係カラ申シマシタナラバ、國內法ニ瓦ル所ノ此度ノ手形法ノ如キ法律ハ、國內法デハドウシテモ特別ナル法規ヲ、法律ヲ以テ制定ヲ致サナケレバナラヌ、帝國議會ノ協賛ヲ經テ、先ニ國內法ヲ持ヘテ置イテ、ソトシテ其儘権密院ノ御諮詢ヲ奏請ヲ致如何ニ之ヲ處理スルノデアルカ
第三ニハ、例ヘバ此度ノ如ク條約ハ未ダナシテモ、斯ノ如キ條約ノ關係カラ申シマシタナラバ、國内法ニ瓦ル所ノ此度ノ手形法ノ如キ法律ハ、國內法デハウシテモ特別ナル法規ヲ、法律ヲ以テ制定ヲ致サナケレバナラヌ、帝國議會ノ協賛ヲ經テ、先ニ國內法ヲ持ヘテ置イテ、ソトシテ其儘権密院ノ御諮詢ヲ奏請スル、斯ナシテ、斯ウ云フ場合ニ於テ、先ヅ先ニ此手形法ト云フモノヲ議會ニ懸ケテ、議會ノ協賛ヲ經テ、先ニ國內法ヲ持ヘテ置イテ、ソトシテ後ニ権密院ニ諮詢ヲ奏請スル、斯ハ、帝國議會ニ於此法律案ヲ審議ヲ致シ、ウ云フ手續ヲ取ラル、場合ニ於キマシテサウシテ後ニ権密院ニ諮詢ヲ奏請スル、斯ハ、帝國議會ニ於此法律案ヲ審議ヲ致シ、色々之ニ付テ意見ヲ述べ、或ハ修正ヲシナケレバナラヌカモ知レナイ、サウ云フ場合ニ於テ、後ニ大本ノ條約ガ権密院ニ御諮詢ニ相成タ場合ニ於テ、権密院ノ意見ト帝國議會ノ意見トガ此間ニ相違致シタ場合ニ於テハ、政府ハ之ヲ如何ニ處理スル考ヲ持テ居ルノデアルカ、是方第三點デアリマス

モ 陛下ノ御裁可ニ依ルモノデアリマスルカラ、統治權ノ下ニ總攬、統一ヲ致サレル

ノデアリマスケレドモ、其間ノ矛盾ト云フモノニ付テ、政府ハ如何ナル責任ヲ持タナケレバナラヌカ、此一點ガ疑問ニ殘ルノデアリマス

ソレカラ又司法大臣ノ御説明ヲ聽キマスト云フト、貴族院ニ於テモサウデアリマスルガ、此條約ノ統一法ニ關スル部分ハ、

法制審議會ノ議ニ懸ケテアル、其同意ヲ得テ居ルト云フコトデアリマスガ、サウスル

ト権密院ニマダ御諮詢ニナラナイ前ニ、此條約ガ法制審議會ノ内議ニ付シテ居ルト云

フコトデアリマシタナラバ、吾々ハ我國ノ外務大臣カラ帝國議會ニ向テ、斯ノ如キ國

内法ニ關スル條約ハ、何モ祕密ハナイノデアリマスカラ、此帝國議會ニ於テ之ヲ公ケニ致シテ、豫メ國民ニ對シテ之ヲ示サレルト云フコトガ、何故出來ナカタデアリマセウ、此點ニ向テモ御尋ヲ致シテ、是デ私ノ質問ヲ終リマス(拍手)

○國務大臣小山松吉君登壇) ○國務大臣(小山松吉君) 再度ノ御質問ニ對シテ御答致シマス、法制審議會ニ懸ケテ置キナガラ帝國議會ニ提出シナカタノヘ、ドウ云フ譯デアルカト云フ御尋デアリマスルガ、重要ナル法案ハ普通ノ手續ト致シマシテ、法制審議會ニ先ニ懸ケルノデアリマスカラ、サウ云フ順序ニナリマシタ次第デアリマス

ソレカラ御批准ガナカタ時、権密院ニ於テ修正セラレタ時ハ、ドウ云フ責任ヲ執ルカト云フ御話デアリマスガ、ソレハ將來ノ事デアリマシテ、其時ニ至リマシテ政府ハ考ヘル積リデアリマス

○議長(秋田清君) 質疑ハ終局致シマシタ、日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スペキ委員ノ選舉ヲ議題ニ供シマス

第一二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○上田孝吉君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○上田孝吉君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、第一號、昭和七年度歲入歲出總豫算追加案、特第一號、昭和七年度各特別會計歲入歲出總豫算追加案、特第一號、昭和七年度各

○議長(秋田清君) 第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定シタルコトヲ宣告シマス

○議長(秋田清君) 債發行ニ關スル法律案(政府提出) 報告書

一(第一號)昭和七年度歲入歲出總豫算追加案
加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決定候此段及報告候也

昭和七年六月九日
衆議院議長秋田清殿
豫算委員長 大口 喜六
報告書

一(特第一號)昭和七年度各特別會計歲入歲出豫算追加案
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決定候此段及報告候也

昭和七年六月九日
衆議院議長秋田清殿
豫算委員長 大口 喜六
報告書

君、森峰一君、中野寅吉君ノ九君ガ御當選ニ相成リマシタ、其中中野君ハ中途ニ於テ辭任致サレマシテ其補闕トシテ福田關次郎君方御當選ニナリマシタ、爾來委員會ハ今九日マデ審議ヲ續ケマシタガ、質疑應答ハ極メテ慎重ニ行ハレタノデアリマス、質疑者ハ長島隆二、小川郷太郎ノ御兩君ヲ初メ、二十五六名ノ多キニ達シマシタガ、其範圍ハ極メテ廣汎ニ瓦リマシテ、財政並ニ經濟ニ關スル問題、外交ニ關スル問題、思想ニ關スル問題ヲ初メ、最近ニ發シマシタ事件等ニ付キマシテモ、詳細ナル質疑應答ガ行ハレマシタ、殊ニ現ニ於ケル經濟界ノ窮況ニ對シテハ、如何ニシテ之ヲ打開匡救スベキヤニ付テ、屢々熱心ナル質疑應答ガ繰返サレタノデアリマス、延テ失業救濟問題、產業政策、金融政策、爲替ニ關スル問題等ニ付キマシテモ、質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、ソレカラ滯貨生絲處分問題ニ付キマシテモ、相當ニ質疑應答ガ繰返サレマシタ、更ニ外交問題トシテ、滿洲ニ關シマシテハ勿論、支那ニ關シマスル問題ニ付テ、頗る詳細ナル質疑應答ガ行ハレタノデアリマス、更ニ憲政運用ニ關スル件ヲ初メ、政府ノ政治的諸方針ニ對シテモ、種々ノ方面ニ向テ質疑應答ガ行ハレマシタガ、其質疑竝ニソレニ對スル政府ノ答辯ニハ、緊要ニシテ有益ナリト思考セラレルモノガ少カラズ考ヘラレマスガ、一々其内容等ニ付キマシテ茲ニ御報告致シマスルコトハ、餘リニ長時間ヲ要スルト考ヘマスガ故ニ、之ヲ速記錄ニ譲ルコトニシタイト存ジマス、而シテ委員會ハ質問終了後討論ニ入りマシテ、政友會ノ青木精一君ヨリ原案全部ニ贊成スル、而シテ其理由ハ本會議ニ於テ陳述スベシトノ意思ヲ表明セラレマシタ、次ニ民政黨ノ前田房之助君モ亦原案全部ニ對シ贊成ノ意思ヲ表明致サレマシテガ、政府ニ對スル希望ト致シマシテ

收支ノ均衡ヲ圖ルニ努力スベシ
二、減債基金繰入一部停止ハ豫算中ニ纏込マレタルヲ以テ之ニ同意ス、併シ政
ハ極メテ慎重ニ行ハレタノデアリマス、質
疑者ハ長島隆二、小川郷太郎ノ御兩君ヲ初
メ、二十五六名ノ多キニ達シマシタガ、其
範圍ハ極メテ廣汎ニ瓦リマシテ、財政並ニ
經濟ニ關スル問題、外交ニ關スル問題、思
想ニ關スル問題ヲ初メ、最近ニ發シマシタ
事件等ニ付キマシテモ、詳細ナル質疑應答
ガ行ハレマシタ、殊ニ現ニ於ケル經濟界
ノ窮況ニ對シテハ、如何ニシテ之ヲ打開匡
救スベキヤニ付テ、屢々熱心ナル質疑應答
ガ繰返サレタノデアリマス、延テ失業救濟
問題、產業政策、金融政策、爲替ニ關スル
問題等ニ付キマシテモ、質疑應答ガ重ネラ
レタノデアリマス、ソレカラ滯貨生絲處分
問題ニ付キマシテモ、相當ニ質疑應答ガ繰
返サレマシタ、更ニ外交問題トシテ、滿洲
ニ關シマシテハ勿論、支那ニ關シマスル問
題ニ付テ、頗る詳細ナル質疑應答ガ行ハレ
タノデアリマス、更ニ憲政運用ニ關スル件
ヲ初メ、政府ノ政治的諸方針ニ對シテモ、種
種々ノ方面ニ向テ質疑應答ガ行ハレマシ
タガ、其質疑竝ニソレニ對スル政府ノ答辯
ニハ、緊要ニシテ有益ナリト思考セラレル
モノガ少カラズ考ヘラレマスガ、一々其内
容等ニ付キマシテ茲ニ御報告致シマスル
コトハ、餘リニ長時間ヲ要スルト考ヘマスガ
故ニ、之ヲ速記錄ニ譲ルコトニシタイト存
ジマス、而シテ委員會ハ質問終了後討論ニ
入りマシテ、政友會ノ青木精一君ヨリ原案
全部ニ贊成スル、而シテ其理由ハ本會議ニ
於テ陳述スベシトノ意思ヲ表明セラレマシ
タ、次ニ民政黨ノ前田房之助君モ亦原案全
部ニ對シ贊成ノ意思ヲ表明致サレマシテ
ガ、政府ニ對スル希望ト致シマシテ
一、政府ハ將來ニ於テ財政計畫ヲ確立シ、

府ハ成べク速ニ是ガ復舊ヲ圖ルベシ
三、產業振興土木費ハ失業救濟ノ目的ヲ
達シ得ルヤウ遺憾ナキヲ期スベシ
此御希望ガ述ベラレマシタ、併シ此御希
望ニ付キマシテハ、決議ヲ要スペキモノデ
アリマセヌカラ、採決ニハ加ヘナイコトニ
致シタノデアリマス、而シテ採決ノ結果、
原案全部ハ出席委員ノ満場一致ヲ以テ、可
決確定致サレタノデアリマス、此段御報告
ニ及ビマス(拍手)
○議長(秋田清君) 是ヨリ討論ニ入り
ス——長島隆二君

(長島隆二君登壇)

○長島隆二君 諸君、私ハ昭和七年度歲入

歲出總豫算追加案外二件ニ關シマシテ、只

其理由ヲ申上ゲタイト存ジマス

本年度豫算、此追加豫算ハ必然的ニ必要
ナモノデアリマス、内外ノ情勢カラ鑑ミマ
シテ、ドウシテモ之ヲ認メル必要ガアルト
提案ニ賛成ヲ致スモノデアリマス、簡單ニ
考ヘマス、殊ニ吾々ト致シマシテハ、此追加
豫算、是ハ政友會内閣時代ニ於キマシテ編
成シタル追加豫算案、其他ヲ其儘踏襲致シ
タモノデアリマシテ、此豫算ノ成立ハ、即
チ吾々ノ財政上ノ計畫實現ノ一步ヲ爲スモ
ノデアリマスカラ、此意味ニ於テ私ハ、此
成立ヲ希望致スノデアリマス(拍手)尙又追
加豫算ヲ實行豫算ト併セマシテ考ヘルノ
ニ、其内容ニ於テ、目下必要ナル幾多ノ經
費ヲ含ンデ居ルノデアリマス、今日大切ナ
ルノハ產業ノ振興デアリマス、モウ一つハ
失業ノ救濟デアリマス、是ハ現在ノ經濟狀
態カラ見マシテ、ドウシテモ力ヲ入レナケ
レバナラヌノデアリマス、此點ニ付キマシ
テ、從前ハ業口經費ヲ緊縮致シ、必要ナル
事業モ或ハ中止、繰延スルト云フ方針ノ下

ニ、豫算ガ編成サレマシタガ、今度ノ實行
豫算竝ニ追加豫算ヲ併セテ見マスルト、其
點ニ於テ一大變化ガアルノデアリマス(拍
手)マダ十分トヘ勿論申ス譯ニハ行キマセ
ス、其外色々ナモノガアリマスルガ、斯ウ
ニ付キマシテハ、決議ヲ要スペキモノデ
アリマセヌカラ、採決ニハ加ヘナイコトニ
致シタノデアリマス、而シテ採決ノ結果、
原案全部ハ出席委員ノ満場一致ヲ以テ、可
決確定致サレタノデアリマス、此段御報告
ニ及ビマス(拍手)
○議長(秋田清君) 是ヨリ討論ニ入り
ス——長島隆二君

ニ、豫算ガ編成サレマシタガ、今度ノ實行
豫算竝ニ追加豫算ヲ併セテ見マスルト、其
點ニ於テ一大變化ガアルノデアリマス(拍
手)マダ十分トヘ勿論申ス譯ニハ行キマセ
ス、其外色々ナモノガアリマスルガ、斯ウ
ニ付キマシテハ、決議ヲ要スペキモノデ
アリマセヌカラ、採決ニハ加ヘナイコトニ
致シタノデアリマス、而シテ採決ノ結果、
原案全部ハ出席委員ノ満場一致ヲ以テ、可
決確定致サレタノデアリマス、此段御報告
ニ及ビマス(拍手)
○議長(秋田清君) 是ヨリ討論ニ入り
ス——長島隆二君

ニ、豫算ガ編成サレマシタガ、今度ノ實行
豫算竝ニ追加豫算ヲ併セテ見マスルト、其
點ニ於テ一大變化ガアルノデアリマス(拍
手)マダ十分トヘ勿論申ス譯ニハ行キマセ
ス、其外色々ナモノガアリマスルガ、斯ウ
ニ付キマシテハ、決議ヲ要スペキモノデ
アリマセヌカラ、採決ニハ加ヘナイコトニ
致シタノデアリマス、而シテ採決ノ結果、
原案全部ハ出席委員ノ満場一致ヲ以テ、可
決確定致サレタノデアリマス、此段御報告
ニ及ビマス(拍手)
○議長(秋田清君) 是ヨリ討論ニ入り
ス——長島隆二君

ニ、豫算ガ編成サレマシタガ、今度ノ實行
豫算竝ニ追加豫算ヲ併セテ見マスルト、其
點ニ於テ一大變化ガアルノデアリマス(拍
手)マダ十分トヘ勿論申ス譯ニハ行キマセ
ス、其外色々ナモノガアリマスルガ、斯ウ
ニ付キマシテハ、決議ヲ要スペキモノデ
アリマセヌカラ、採決ニハ加ヘナイコトニ
致シタノデアリマス、而シテ採決ノ結果、
原案全部ハ出席委員ノ満場一致ヲ以テ、可
決確定致サレタノデアリマス、此段御報告
ニ及ビマス(拍手)
○議長(秋田清君) 是ヨリ討論ニ入り
ス——長島隆二君

長島君ノ御演説ノ中ニ、産業五箇年計畫ノコトモ御述ニナリマシタケレドモ、政友會ハ曾テ在野ノ時代ニ産業五箇年計畫ヲ高唱セラレマシテ、其案ハ一二度變々テ居リマスルカラ、最後ノ變々案ハ承知致シマセヌケレドモ、最初ハ輸入ヲ防遏スル爲ニ六億圓、輸出ヲ增加スル爲ニ二億圓、先づ八億圓ト云フ見當ヲ置イテ、産業ノ振興ヲ圖ルト云フ計畫デアバタノガ、後ニ數字ハ變々テ居リマシテモ、産業五箇年計畫ト云フモノガ、我產業界ニ非常ナル曙光ヲ齎スベキ所ノ、老大ナル計畫デアルト云フコトハ、爭フコトガ出來ナカッタニ拘ラズ、今度ノ豫算案ニ於テハ農林省、商工省ニ於テ、僅ニ數十萬圓ノ豫算ヲ計上シタノミデアルニ至テハ、此五箇年計畫ノ實行ト云フコトニ對シテ、甚ダ不誠意デアバタト云フコトヲ證明シテ居ルト思フノデアリマス(拍手)右手ニハ產業五箇年計畫ヲ高唱セラレ、左手ニハ五千万圓減稅ヲ唱ヘラレタノデアルケレドモ、此赤字ノ出デ居ル歲出入ノ豫算ヲ眺メラレテ、何時五千万圓減稅ガ出來ルカ、國民ノ前ニ公約セラレタ五千万圓減稅ト云フモノガ、何處ニ飛去、タカ分ラナイ狀態ニ在ルト謂ハナケレバナラナイノデアル(拍手)

先程長島君ハ財政ヲ御論ジニナッタ後デ、此積極政策ニ依ル財政計畫ヲ立テタ、此積極政策ノ財政計畫ヲ立テタ、此積極政策ノ財政計畫ヲ立テタ基礎ハ、積極的其通りアリマセウ、ソンナラバ其積極的ノ財政經濟計畫ト云フモノハ、如何ナルモノヲ御指シニナッテ居ルノデアリマスルカ、成程政友會内閣が出來タ其晚ニ實行セラレタモノハ、金ノ輸出禁止デアリマス、輸出禁止ヲ行ウタナラバ、直チニ爲替ガ下ル、爲替ノ下ヅタ結果國內ノ物價ハ上ッテ、國外ノ物價ガ下ッテ、サウシテ經濟界ニ刺戟ヲ與ヘテ貿易ヲ好轉サスノデアルト云フコトヲ言ハレマシタケレドモ、爲替ハ成程下リマシタケレドモ、其反動ヲ受ケテ一時ハ貿易編

係ノ物價ハ上々タケレドモ、ソレハ僅カ一二箇月デアッテ、三月以降ハ物價ガ段々下ル所向ヲ示シテ居テ、所謂爲替ノ下落ニ依ル所

ノ物價ノ騰貴ト云フモノガ現ハレテ來ナカッタノハ、購買力ノ附カナイ經濟界ニ向テ、單ニ貨幣價值ノミ下タ所デ、物價ノ騰貴ニ永續性ノナイコトヲ、明白ニ證據立テラレタト思フノデアル(拍手)又通貨ノ膨脹ニ依テ、通貨ノ膨脹ノ結果ハ物價ガ上ルモノト御覽ニナッテ居タヤウデアリマスルケレドモ、是亦「インフレーション」ヲ起シタ所デ、物價ハチットモ上ラナイノミナラズ、出夕紙幣ハ還ダテ來ルト云フヤウナ狀況ハ、是ハ何處ニ其根源ガアルカト言ヘバ、マダ消費力ヲ持タナイ所ノ國民、購買力ヲ持タナイ國民、所謂需要家ノ懷ガ肥エナイ先ニ、物價ノミ上ダヨウト云フ政策ヲ執ラレタコトガ、間違デアルト云フコトヲ證據立テ、居ルノデアリマス(拍手)私共ハ斯様ナ意味ニ於テ、此項危險ニ思ハレマスコトハ、平價切下ヲヤリニナルト云フヤウナコトモ論ゼラレテ居リマスルガ、假ニ平價切下ヲヤルト言フナラバ、此豫算案ト云フモノハ、殆ド是ハ實行不可能ニ陷ルコトハ明カデアルト謂ハナケレバナラヌ、吾々ハ此豫算案ヲ承認スル前ニ當テ、平價切下ノ行ハレザルモノト云フ條件ノ下ニ、此豫算案ヲ承認スルノ外ハナイト思フノデアリマス(拍手)最後ニ一言申上ゲタイコトハ、此追加豫算ノ中ニ計上セラレマシタル滿洲事件費ニ

對シマシテハ、滿洲國ノ治安ヲ維持スル爲ニ、適切ニ其目的ニ向テ費用ヲ御使ヒヲ右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和七年六月九日
衆議院議長秋田清殿 员長 山崎達之輔 報告書

○上田孝吉君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ政府提出、兌換銀行券條例中改正法律案、日本銀行納付金法案、日本銀行參與會法案、及資本逃避防止法案、第一括シテ議題トシ、委員長ノ報告ヲ求メタルコトヲ宣告致シマス
〔拍手起立〕

○議長(秋田清君) 起立總員——三案ハ委員長報告ノ通り全會一致ヲ以テ可決確定シタルコトヲ宣告致シマス
〔拍手起立〕

○上田孝吉君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ政府提出、兌換銀行券條例中改正法律案、日本銀行納付金法案、日本銀行參與會法案、及資本逃避防止法案、第一括シテ議題トシ、委員長ノ報告ヲ求メタルコトヲ宣告致シマス
〔拍手起立〕

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔賛成〕ノ聲起ル

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ノ聲起ル

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、兌換銀行券條例中改正法律案、日本銀行納付金法案、日本銀行參與會法案、資本逃避防止法案、右ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス
〔拍手〕

○議長(秋田清君) 第一讀會ノ續ヲ開キマス——委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長長山崎達之輔 報告書

一資本逃避防止法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和七年六月九日
衆議院議長秋田清殿 员長 山崎達之輔 報告書

〔山崎達之輔君登壇〕

○山崎達之輔君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマシテハ、滿洲國ノ治安ヲ維持スル爲ニ、適切ニ其目的ニ向テ費用ヲ御使ヒヲ右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和七年六月九日
衆議院議長秋田清殿 员長 山崎達之輔 報告書

○山崎達之輔君 只今議題トナリマシタル兌換銀行券條例中改正法律案外三件ノ委員會ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、委員會ニ付託サレマシタ法案ハ四件デゴザイマスガ、何レモ金輸出禁止後ニ於ケル經濟上ノ情勢ニ基キマシテ、必要トナリマシタル諸對策ノ金融的基礎ヲ、創成セントスル案デアリマシテ、四案ソレム相互通聯致

○上田孝吉君 三案ニ對スル討論ハ、此程度デ終局セラレンコトヲ望ミマス
○上田孝吉君 三案ニ對スル討論ハ、此程

資本逃避防止法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
日本銀行參與會法案(政府提出)
日本銀行參與會法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
日本銀行參與會法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
出)

一兌換銀行券條例中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和七年六月九日
衆議院議長秋田清殿 员長 山崎達之輔 報告書

第四條 産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外負債整理組合ニ付之ヲ準用ス

第五條 負債整理組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ爲スコトヲ得

一 組合員ノ經濟狀態ノ調査

二 負債整理組合ニ關スル計畫立案

三 負債整理ノ助成指導

四 整理資金ノ調達及貸付

五 組合員ノ爲ニスル預り金

六 組合員ノ生産品ノ代理販賣

七 組合員ノ生活並産業ノ改良ニ關スル指導

八 其ノ他組合ノ目的ヲ達成スルニ必

第六條 負債整理組合ノ組合員タル者ハ

市町村ノ住民ニシテ勅令ノ定メタル資

格ヲ有スル者タルコトヲ要ス

第七條 市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依

リ市町村ノ負債整理調査會ヲ設置シ市

町村住民ノ負債ヲ調査スヘシ

市町村長ニ於テ其ノ市町村住民ノ有ス

ル負債カ勅令ノ定ムル條件ニ該當スル

トキハ遲滞ナク負債整理組合設立ノ準

備ニ着手スヘシ

第八條 負債整理組合ヲ設立セムトスル

者ハ前條ノ規定ニ依ル市町村長ノ設立

準備ヲ俟タシテ定款ヲ作り市町村長

ニ差出シ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ得

第九條 市町村長ハ市町村ノ地域内ニ於

ケル負債整理ニ關スル事務ヲ管掌スル

モノトス

第十條 政府ハ本法施行ノ日ヨリ五箇年

間ニ負債整理資金トシテ金十億圓ヲ年

三分五厘ノ利率ヲ以テ特殊機關ヲ通シ

負債整理組合ニ貸付クルモノトス

貸付ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

ム

第十一條 政府ハ負債整理資金ヲ調達スル爲ニ籤札附整理公債ヲ發行スルコト

第十二條 政府ハ負債整理資金及損失補償資金ヲ得ル爲ニ籤札ヲ發賣スルコトヲ得

第十三條 政府ハ特殊機關ヲシテ負債整理資金ヲ得ル爲ニ籤札附整理債券ヲ發行セシムルコトヲ得

第十四條 政府ハ特殊機關ヲシテ第十二條ノ籤札ノ發賣ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 前四條ニ關スル細則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 負債整理組合ハ擔保ヲ徵セスシテ三十箇年以内ノ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得但シ組合員一人ニ付二千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 組合員カ擔保ヲ提供スルキ前條但書ノ制限ニ拘ラスニ万圓迄貸付

第十八條 負債整理組合ノ貸付利率ハ年四分以下トス

前項ノ歩合ヲ超過スルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十九條 負債整理組合ハ組合員ニ貸付ニ際シ貸付金ノ一割ヲ控除シ之ヲ償還

資金ノ一部トシテ別途ニ積立テ運用スルモノトス

第二十條 前四條ノ貸付ニ關スル事項ハ

命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 負債整理組合ノ整理案ニ對シ同意セサル債権者アルトキハ其ノ債権者ニ對スル債務ハ契約條件ノ如何ニ

シテ、前内閣時代ニ於キマシテ、大ニ此點

シテ、行詰リノ極ニ達セント致シテ居ルノデアリマス

マス、昨今農村ノ救濟運動が澎湃トシテ起

テ參々タノデアリマスルケレドモ、私共ハ既

ニ早ク今日アルヲ豫見シ、農村ノ負債ノ整

理、其他ノ非常緊急ノ手段ヲ執ラナカッタ

シテ、前内閣時代ニ於キマシテ、大ニ此點

シテ、都市ノ中層以下ノ各階級ノ經濟狀態ノ改善

ガニ對シテ非常ナ援助ト指導ヲ與ヘテ、

組合員ノ負債ヲ整理スルト共ニ、農村並ニ

位トシ、若クハ事情ト場合ニ依リマシテハ、

町村ヨリモ更ニ小サナ區域ヲ單位トシテ、

全國的ニ負債整理組合ヲ設置サセテ、組合員ノ協力ニ依リテ組合ヲ組織セシメテ、國家

ガニ對シテ非常ナ援助ト指導ヲ與ヘテ、

組合員ノ負債ヲ整理スルト共ニ、農村並ニ

都市ノ中層以下ノ各階級ノ經濟狀態ノ改善

ヲ計シテ、ソレ以テ此目的ヲ達シヨウト云

フノデアリマス、私共ノ意見ト致シマシテ、本案第十條ニ示シテアル所ニ依リマス

ト云フト、國家ハ十億圓ヲ五箇年間ニ支出

シテ、而モソレハ非常ナ低利デ、年三分五

厘ノ低利ヲ以テ特殊機關ヲ通ジ負債整理組合ニ貸付ケル、之ヲ借り受けタ所ノ組合

ハ、主トシテ無擔保又ハ擔保附デ、三十年

以内ノ年賦償還、月割取立ノ方法デ、四分

モ緊要ナル負債整理組合法案ヲ提出シタヤ

ウナ次第デアリマス、世間負債整理ノ爲ニ

第二十四條 負債整理組合聯合會及負債整理組合中央會ニ關スル規定ハ勅令ヲ得

整理組合中央會ニ關スル規定ハ勅令ヲ得

以テ之ヲ定ム

第二十五條 負債整理組合及負債整理組合聯合會ハ大藏大臣地方長官及北海道長官之ヲ監督ス

負債整理組合中央會ハ大藏大臣之ヲ監督ス

第十二條 政府ハ負債整理資金及損失補償資金ヲ得ル爲ニ籤札ヲ發賣スルコトヲ得

第十三條 政府ハ特殊機關ヲシテ負債整理資金ヲ得ル爲ニ籤札附整理債券ヲ發行セシムルコトヲ得

第十四條 政府ハ特殊機關ヲシテ第十二條ノ籤札ノ發賣ヲ爲サシムルコトヲ得

第十五條 前四條ニ關スル細則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 負債整理組合ハ擔保ヲ徵セスシテ三十箇年以内ノ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得但シ組合員一人ニ付二千圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 組合員カ擔保ヲ提供スルキ前條但書ノ制限ニ拘ラスニ万圓迄貸付

第十八條 負債整理組合ノ貸付利率ハ年四分以下トス

前項ノ歩合ヲ超過スルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第十九條 負債整理組合ハ組合員ニ貸付ニ際シ貸付金ノ一割ヲ控除シ之ヲ償還

資金ノ一部トシテ別途ニ積立テ運用スルモノトス

第二十條 前四條ノ貸付ニ關スル事項ハ

命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 負債整理組合ノ整理案ニ對シ同意セサル債権者アルトキハ其ノ債

権者ニ對スル債務ハ契約條件ノ如何ニ

シテ、前内閣時代ニ於キマシテ、大ニ此點

シテ、都市ノ中層以下ノ各階級ノ經濟狀態ノ改善

ヲ計シテ、ソレ以テ此目的ヲ達シヨウト云

フノデアリマス、私共ノ意見ト致シマシテ、本案第十條ニ示シテアル所ニ依リマス

ト云フト、國家ハ十億圓ヲ五箇年間ニ支出

シテ、而モソレハ非常ナ低利デ、年三分五

厘ノ低利ヲ以テ特殊機關ヲ通ジ負債整理組合ニ貸付ケル、之ヲ借り受けタ所ノ組合

ハ、主トシテ無擔保又ハ擔保附デ、三十年

以内ノ年賦償還、月割取立ノ方法デ、四分

モ緊要ナル負債整理組合法案ヲ提出シタヤ

ウナ次第デアリマス、世間負債整理ノ爲ニ

借金ノ棒引ヲセヨ、或ハ半減ヲセヨト云フコトガ言ハレテ居ルノデアリマスルケレドモ、其言ヤ快ハ快ニシテ、是ハ言フコトハ易イケレドモ、愈、行フコトハ困難デ、而モ其禍害ノ及ブ所測リ知ルベカラザルモノガアルカラ、斷ジテ行フコトハ出來ナイノデアリマス、併ナガラ農村ト言ハズ、都市ト言ハズ、中層以下ノ各階級ノ大キナ負債ノ重壓ヲ、取除イテヤラナカツタナラバ、此重壓カラ國民ヲ解放シテヤラナカツタナラバ、如何ニ積極政策ヲ行ヒマシテモ、日本銀行ノ兌換發行制度ノ改正ヲ行ヒマシテモ、各種ノ積極的政策「インフレーション」政策ヲ執リマシテモ、私ハ我國國民經濟ノ振興ヲ見ルコトガ出來ナイモノト存ジマス、負債整理シ、其他緊急な案件ノ解決ヲシテ、地方ニ購買力ガ起ツテ、金ガ地方ニ止マクテ、都會中心地ニ資金ガ逃避シナイヤウナ手段ヲ以テシテ、始メテ我國ノ本當ノ經濟ノ建設シヲ見ルコトガ出來ルト、私ハ信ジテ疑ハナイノデアリマス

本案ノ大要ヲ申シマスレバ、負債整理ノ手段トシテ、我國ノ全國ニ亘ラステ市町村ヲ單位トシ、若クハ事情ト場合ニ依リマシテハ、

町村ヨリモ更ニ小サナ區域ヲ單位トシテ、

全國的ニ負債整理組合ヲ設置サセテ、組合員ノ協力ニ依リテ組合ヲ組織セシメテ、國家

ガニ對シテ非常ナ援助ト指導ヲ與ヘテ、組合員ノ負債ヲ整理スルト共ニ、農村並ニ

都市ノ中層以下ノ各階級ノ經濟狀態ノ改善

ヲ計シテ、ソレ以テ此目的ヲ達シヨウト云

フノデアリマス、私共ノ意見ト致シマシテ、本案第十條ニ示シテアル所ニ依リマス

ト云フト、國家ハ十億圓ヲ五箇年間ニ支出

シテ、而モソレハ非常ナ低利デ、年三分五

厘ノ低利ヲ以テ特殊機關ヲ通ジ負債整理組合ニ貸付ケル、之ヲ借り受けタ所ノ組合

ハ、主トシテ無擔保又ハ擔保附デ、三十年

以内ノ年賦償還、月割取立ノ方法デ、四分

モ緊要ナル負債整理組合法案ヲ提出シタヤ

ウナ次第デアリマス、世間負債整理ノ爲ニ

高利短期ノ負債ヲ長期最低利債ニ借替整理セシメヨウト云フノデアリマス、其爲ニハ非常ニ多額ナル資金ヲ要スルコトデアリマスカラ、其資金トシテ國八十億ノ金ヲ出资常ノ手段デ此資金ヲ得ルコトハ容易デハナイノデアリマスカラ、其國ノ貸付ケルベキ所ノ貸付資金ニ付テハ、其資金ノ一部又ハ全部ヲ得ル爲ニ、又其貸付ノ爲ニ損失ヲ考ヘナケレバナラヌ、其損失ノ補償、或ハ其他ノ機關カラ負債整理組合ニ資金ヲ貸付ケル際ニ、普通ノ場合低利デ貸付ケルコトガ出來ナイノデ、利子ノ補給ヲシナケレバナラヌト云フ場合ガ起テ參ルノデアリマス、其様ナ各種ノ資金ヲ得ル爲ニ、政府ハ籤札附ノ整理公債ヲ發行スルコトモシナケレバナラヌ、又負債整理ノ爲ニ、特ニ中央ニ庶民金融機關ノ如キモノヲ設ケタイト考ヘマシテ、ソレヲ特殊機關ト此處デ稱シテ居ルノデゴザイマスガ、其特殊機關ヲ通じテ籤札ノ附イタ所ノ、整理債券ヲ發行サスト云フコトモ必要デアラウト考ヘマス、又ト云フコトモ必要デアラウト考ヘマス、又籤札附ノ整理公債デハナク、又籤札附ノ整理債券デモナク、單ニ國又ハ國ガ或る機關ヲ指定シテ籤札、即チ富籤ノ發賣ヲシメ、資金ヲ集メル必要ガアルト私ハ存ジマシテ、其事ヲ十條以下十五條ニ亘ツテ規定ヲ致シタノデゴザイマス、富籤ノ行爲ニ付キマシテハ、現在ニ於キマシテハ刑法第二十三章ノ百八十七條ニ富籤ヲ禁止シテ、處罰スル所ノ規定ガアルノデゴザイマスノデ、此點ニ付キマ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢シテ前内閣ノ司法當局ト吾々ハ、屢々交渉ヲ續ケマシテ、社會政策的ニ大ナル所ノ意義ノアル庶民ノ負債整理ヤ、失業救濟ノ資金ヲ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢上已ムヲ得ナイコトデアルカラ、ソレヲ承認スルト云フ内諾ヲ得タノデアリマス、ソレデ私共ハ次ノ議會ニ、引續キマシテ社會政策的施設ノ財源ヲ得ル爲ニ、或者ガ富籤行爲ヲ爲スモノ罪トナラナイト云フ意味ノ

法律案ヲ、議會ニ提出致シタイト云フ考デアリマスカラ、豫メ御諒承ヲ御願致シマス多少長クハナリマスケレドモ、姑ク籤札即富籤ニ付テノ説明ヲ聽イテ戴キタイト存ジマス富籤ノ發行ニ付キマシテ、我國ニ於テハキ所ノ貸付資金ニ付テハ、其資金ノ一部又ハ全部ヲ得ル爲ニ、又其貸付ノ爲ニ損失ヲ考ヘナケレバナラヌ、其損失ノ補償、或ハ其他ノ機關カラ負債整理組合ニ資金ヲ貸付ケル際ニ、普通ノ場合低利デ貸付ケルコトガ出來ナイノデ、利子ノ補給ヲシナケレバナラヌト云フ場合ガ起テ參ルノデアリマス、其様ナ各種ノ資金ヲ得ル爲ニ、政府ハ籤札附ノ整理公債ヲ發行スルコトモシナケレバナラヌ、又負債整理ノ爲ニ、特ニ中央ニ庶民金融機關ノ如キモノヲ設ケタイト考ヘマシテ、ソレヲ特殊機關ト此處デ稱シテ居ルノデゴザイマスガ、其特殊機關ヲ通じテ籤札ノ附イタ所ノ、整理債券ヲ發行サスト云フコトモ必要デアラウト考ヘマス、又籤札附ノ整理公債デハナク、又籤札附ノ整理債券デモナク、單ニ國又ハ國ガ或る機關ヲ指定シテ籤札、即チ富籤ノ發賣ヲシメ、資金ヲ集メル必要ガアルト私ハ存ジマシテ、其事ヲ十條以下十五條ニ亘ツテ規定ヲ致シタノデゴザイマス、富籤ノ行爲ニ付キマシテハ、現在ニ於キマシテハ刑法第二十三章ノ百八十七條ニ富籤ヲ禁止シテ、處罰スル所ノ規定ガアルノデゴザイマスノデ、此點ニ付キマ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢シテ前内閣ノ司法當局ト吾々ハ、屢々交渉ヲ續ケマシテ、社會政策的ニ大ナル所ノ意義ノアル庶民ノ負債整理ヤ、失業救濟ノ資金ヲ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢上已ムヲ得ナイコトデアルカラ、ソレヲ承認スルト云フ内諾ヲ得タノデアリマス、ソレデ私共ハ次ノ議會ニ、引續キマシテ社會政策的施設ノ財源ヲ得ル爲ニ、或者ガ富籤行爲ヲ爲スモノ罪トナラナイト云フ意味ノ

法律案ヲ、議會ニ提出致シタイト云フ考デアリマスカラ、豫メ御諒承ヲ御願致シマス多少長クハナリマスケレドモ、姑ク籤札即富籤ニ付テノ説明ヲ聽イテ戴キタイト存ジマス富籤ノ發行ニ付キマシテ、我國ニ於テハキ所ノ貸付資金ニ付テハ、其資金ノ一部又ハ全部ヲ得ル爲ニ、又其貸付ノ爲ニ損失ヲ考ヘナケレバナラヌ、其損失ノ補償、或ハ其他ノ機關カラ負債整理組合ニ資金ヲ貸付ケル際ニ、普通ノ場合低利デ貸付ケルコトガ出來ナイノデ、利子ノ補給ヲシナケレバナラヌト云フ場合ガ起テ參ルノデアリマス、其様ナ各種ノ資金ヲ得ル爲ニ、政府ハ籤札附ノ整理公債ヲ發行スルコトモシナケレバナラヌ、又負債整理ノ爲ニ、特ニ中央ニ庶民金融機關ノ如キモノヲ設ケタイト考ヘマシテ、ソレヲ特殊機關ト此處デ稱シテ居ルノデゴザイマスガ、其特殊機關ヲ通じテ籤札ノ附イタ所ノ、整理債券ヲ發行サスト云フコトモ必要デアラウト考ヘマス、又籤札附ノ整理公債デハナク、又籤札附ノ整理債券デモナク、單ニ國又ハ國ガ或る機關ヲ指定シテ籤札、即チ富籤ノ發賣ヲシメ、資金ヲ集メル必要ガアルト私ハ存ジマシテ、其事ヲ十條以下十五條ニ亘ツテ規定ヲ致シタノデゴザイマス、富籤ノ行爲ニ付キマシテハ、現在ニ於キマシテハ刑法第二十三章ノ百八十七條ニ富籤ヲ禁止シテ、處罰スル所ノ規定ガアルノデゴザイマスノデ、此點ニ付キマ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢シテ前内閣ノ司法當局ト吾々ハ、屢々交渉ヲ續ケマシテ、社會政策的ニ大ナル所ノ意義ノアル庶民ノ負債整理ヤ、失業救濟ノ資金ヲ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢上已ムヲ得ナイコトデアルカラ、ソレヲ承認スルト云フ内諾ヲ得タノデアリマス、ソレデ私共ハ次ノ議會ニ、引續キマシテ社會政策的施設ノ財源ヲ得ル爲ニ、或者ガ富籤行爲ヲ爲スモノ罪トナラナイト云フ意味ノ

法律案ヲ、議會ニ提出致シタイト云フ考デアリマスカラ、豫メ御諒承ヲ御願致シマス多少長クハナリマスケレドモ、姑ク籤札即富籤ニ付テノ説明ヲ聽イテ戴キタイト存ジマス富籤ノ發行ニ付キマシテ、我國ニ於テハキ所ノ貸付資金ニ付テハ、其資金ノ一部又ハ全部ヲ得ル爲ニ、又其貸付ノ爲ニ損失ヲ考ヘナケレバナラヌ、其損失ノ補償、或ハ其他ノ機關カラ負債整理組合ニ資金ヲ貸付ケル際ニ、普通ノ場合低利デ貸付ケルコトガ出來ナイノデ、利子ノ補給ヲシナケレバナラヌト云フ場合ガ起テ參ルノデアリマス、其様ナ各種ノ資金ヲ得ル爲ニ、政府ハ籤札附ノ整理公債ヲ發行スルコトモシナケレバナラヌ、又負債整理ノ爲ニ、特ニ中央ニ庶民金融機關ノ如キモノヲ設ケタイト考ヘマシテ、ソレヲ特殊機關ト此處デ稱シテ居ルノデゴザイマスガ、其特殊機關ヲ通じテ籤札ノ附イタ所ノ、整理債券ヲ發行サスト云フコトモ必要デアラウト考ヘマス、又籤札附ノ整理公債デハナク、又籤札附ノ整理債券デモナク、單ニ國又ハ國ガ或る機關ヲ指定シテ籤札、即チ富籤ノ發賣ヲシメ、資金ヲ集メル必要ガアルト私ハ存ジマシテ、其事ヲ十條以下十五條ニ亘ツテ規定ヲ致シタノデゴザイマス、富籤ノ行爲ニ付キマシテハ、現在ニ於キマシテハ刑法第二十三章ノ百八十七條ニ富籤ヲ禁止シテ、處罰スル所ノ規定ガアルノデゴザイマスノデ、此點ニ付キマ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢シテ前内閣ノ司法當局ト吾々ハ、屢々交渉ヲ續ケマシテ、社會政策的ニ大ナル所ノ意義ノアル庶民ノ負債整理ヤ、失業救濟ノ資金ヲ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢上已ムヲ得ナイコトデアルカラ、ソレヲ承認スルト云フ内諾ヲ得タノデアリマス、ソレデ私共ハ次ノ議會ニ、引續キマシテ社會政策的施設ノ財源ヲ得ル爲ニ、或者ガ富籤行爲ヲ爲スモノ罪トナラナイト云フ意味ノ

法律案ヲ、議會ニ提出致シタイト云フ考デアリマスカラ、豫メ御諒承ヲ御願致シマス多少長クハナリマスケレドモ、姑ク籤札即富籤ニ付テノ説明ヲ聽イテ戴キタイト存ジマス富籤ノ發行ニ付キマシテ、我國ニ於テハキ所ノ貸付資金ニ付テハ、其資金ノ一部又ハ全部ヲ得ル爲ニ、又其貸付ノ爲ニ損失ヲ考ヘナケレバナラヌ、其損失ノ補償、或ハ其他ノ機關カラ負債整理組合ニ資金ヲ貸付ケル際ニ、普通ノ場合低利デ貸付ケルコトガ出來ナイノデ、利子ノ補給ヲシナケレバナラヌト云フ場合ガ起テ參ルノデアリマス、其様ナ各種ノ資金ヲ得ル爲ニ、政府ハ籤札附ノ整理公債ヲ發行スルコトモシナケレバナラヌ、又負債整理ノ爲ニ、特ニ中央ニ庶民金融機關ノ如キモノヲ設ケタイト考ヘマシテ、ソレヲ特殊機關ト此處デ稱シテ居ルノデゴザイマスガ、其特殊機關ヲ通じテ籤札ノ附イタ所ノ、整理債券ヲ發行サスト云フコトモ必要デアラウト考ヘマス、又籤札附ノ整理公債デハナク、又籤札附ノ整理債券デモナク、單ニ國又ハ國ガ或る機關ヲ指定シテ籤札、即チ富籤ノ發賣ヲシメ、資金ヲ集メル必要ガアルト私ハ存ジマシテ、其事ヲ十條以下十五條ニ亘ツテ規定ヲ致シタノデゴザイマス、富籤ノ行爲ニ付キマシテハ、現在ニ於キマシテハ刑法第二十三章ノ百八十七條ニ富籤ヲ禁止シテ、處罰スル所ノ規定ガアルノデゴザイマスノデ、此點ニ付キマ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢シテ前内閣ノ司法當局ト吾々ハ、屢々交渉ヲ續ケマシテ、社會政策的ニ大ナル所ノ意義ノアル庶民ノ負債整理ヤ、失業救濟ノ資金ヲ得ル爲ニハ富籤ヲ發賣スルノモ、世界ノ大勢上已ムヲ得ナイコトデアルカラ、ソレヲ承認スルト云フ内諾ヲ得タノデアリマス、ソレデ私共ハ次ノ議會ニ、引續キマシテ社會政策的施設ノ財源ヲ得ル爲ニ、或者ガ富籤行爲ヲ爲スモノ罪トナラナイト云フ意味ノ

六、組合員ノ生産品ノ代理販賣、七、組合員ノ生活並産業ノ改良ニ關スル指導、八、組合員ノ其他組合ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル施設トスウ云フヤウニ致シテ置キマシタカラ、

先ツ遗漏ナク自由ナ十分ナル所ノ活動ガ出来テ、負債整理ノ目的ヲ達スルニ十分デアラウト考ヘルノデアリマス。

更ニ最後ニ皆様ノ御注意ヲ御願致シタイノハ、第二十一條ノ規定デアリマス、第一十一條ニハ「負債整理組合ノ整理案ニ對シ同意セサル債權者アルトキハ其ノ債權者ニ對スル債務ハ契約條件ノ如何ニ拘ラス三箇年据置三十箇年年賦償還利率年五分ノ計算ヲ以テ債務ノ決済ヲ爲シ得ルモノトス」トアリマス、此規定ハ多少酷ノヤウデハアリマスケレドモ、非常ノ手段トシテ負債整理組合ヲ設置セシメテ、國家ガ非常ナル犠牲ヲ拂ハレテ、不自由ナル中カラ資金マデ與ヘテヤラウト云フナラバ、是位ノ規定ヲ以テ不同意ノ債權者ヲ抑へテモ、差支ヘナカラウト考ヘルノデアリマス、其他申上ゲヌアリマセヌ。

○議長(秋田清君) 本案ニ對シ質疑ノ通告ハアリマセヌ

○上田孝吉君 本案ハ政府提出、絲價安定融資擔保生絲買收法案外一件ノ委員會ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 本案ハ對シ質疑ノ通

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 本案ニ對シ質疑ノ通告ハアリマセヌ

○上田孝吉君 本案ハ政府提出、絲價安定融資擔保生絲買收法案外一件ノ委員會ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

第六 中央卸賣市場法中改正法律案
(土倉宗明君提出) 第一讀會
中央卸賣市場法中改正法律案
第六條 主務大臣ハ中央卸賣市場開設者ノ意見ヲ聞キ其ノ中央卸賣市場ノ取扱品目ヲ追加スルトキ亦同シ

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(土倉宗明君登壇)

○土倉宗明君 本法改正ノ目的ハ、第六條ノ規定ニアリマスル閉鎖命令ハ、中央卸賣市場業務開始後ニ於テモ、當該指定區域内ニ於テ、中央卸賣市場類似ノ業務ヲ爲ス所ノ市場ノ閉鎖ヲ命ズルコトヲ得ルト云フコトニ致シタйт云フノガ、本法改正ノ目的デアルノデアリマス、其理由ハ中央卸賣市場ガ設ケラレテ居ル其區域内ニ類似ノ業務ガ一盛ニ卸賣市場ト類似ノ業務ヲ營ミマシテ、折角設ケラレテ居リマスル所ノ市場ノ機能ヲ阻害スルノ虞ガアリマスルカラ、即チ本法第六條ノ規定ノ中カラ「主務大臣ハ中央卸賣市場開設者ノ意見ヲ聞キ其ノ中央卸賣市場ノ取扱品目ニ付當該指定區域内ニ於テ中央卸賣市場類似ノ業務ヲ爲ス所ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得中央卸賣市場ノ取扱品目ヲ追加スルトキ亦同シ」斯様ニ致シタル件(原物兵衛君外七名提出)右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也。

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシテ、ハ、頗ル同情ニ倣スルモノガゴザイマシテ、サウシテ是等ノ人々ハ毎年研學更ニ勉強ヲ續ケマシテ、今日ハ家業ノ傍ラ其他色々苦學ヲ致シテ、此試験ニ應ジテ參テ居ルノデゴザイマス、二千人ノ受驗生ト二千人ノ家族トヲ救濟シマスル所以ノモノハ、社會政策ノ上ニ於キマシテモ、必要缺クベカラザル問題デアラウト思フノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、此點ニ對シマシテ非常ナル贊意ヲ表シマシテ、滿場一致原案ノ通り可決致シタ次第ゴザイマス、右御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

○議長(秋田清君) 此際暫時休憩セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、仍テ此場合暫時休憩致シマス

午後三時三十二分休憩 午後四時十六分開議

○議長(秋田清君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス、日程第七、大正十二年法律第五十二號中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長原物兵衛君——理事青木雷三郎君

第七 大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(原物兵衛君外七名提出)第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書 一大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)(原物兵衛君外七名提出)第一讀會ノ續(委員長報告)

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマス、本案ノ第一讀會ヲ開クニ決シマシタ

○上田孝吉君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ相チニ第二讀會ヲ開キマス

○議長(秋田清君) 本案ハ議長指名九名ノ委員会ノ御報告申上ゲマス、本案ハ御承知ノ通リニ辯護士ノ受驗資格ニ關シマスル法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)

○上田孝吉君 第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシテ、

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(秋田清君) 議事日程追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、昭和七年法律第一號中改正法律案、昭和七年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、行政整理又ハ軍備整理ニ際シ退官退職シタル者等ニ交付スル公債發行資金ノ繕入一部停止ニ關スル法律案、國債

來時價ノ下タ場合ニ、所謂蛸配當ヲ爲スノ
處ガナイカト云フ質問デアリマシテ、又此
惡習慣ガ一般ノ有價證券、商業手形ニモ及
ブ虞ハナイカト云フコトデアリマシタ、之
ニ對シテ政府ノ答辯ハ、營業者ハ自ラ堅實
ヲ圖ラナケレバナラヌモノデアル、又ソレ
ゾレ監督ノ法ヲ設ケテアルガ故ニ、左様ナ
ル虞ハナイ、國債ハ他ノ有價證券ト異²テ、
國家ト生存ヲ一ニシテ居ルモノデアル、公
債ガ一時下²テ、半期々々ノ計算ヲ爲ス場合
ニ、一々之ヲ償還シナケレバナラヌコトデ
アツタナラバ、非常大不便デアリ、公債ヲ買
フ人ノ爲ニ不安デアル、此法律ニ依²テ市價
ノ安定ヲ期シ、仍テ以テ公債ノ市價ヲ高メ
ル所以デアル——維持スル所以デアルト云
フコトノ御答辯デアリマシタ、然ラバ清算
ノ時ニ發行價格ヲ以テ之ヲ計算スル、或ハ
日本銀行ノ貸出ニ付テ、此趣旨ヲ適用ス
ル、或ハ納稅ニ於テモ此趣旨ヲ適用スルコ
トニナツタナラバ、一層ノ優遇デハナイカ
ト云フコトデアリマシタ。

又國債ノ優遇案ニ關シテ今一つノ質問
(總理ハドウシタ「ト呼フ者アリ)標準發行
價格又ハ取得ノ際ニ於ケル時價ガ額面額ト
異²テ居ル場合ニ於テハ、其差額ヲ償還マデ
ノ期間ニ於テ割當テ、之ヲ毎期ノ價額ニ加
減ヲ致シテ評價ヲスルト云フ一項ヲ加ヘテ
ハドウデアルカ、即チ所謂均等利廻計算法
ヲ適用シテハ如何デアルカト云フ質問デア
リマシタガ、是ハ如何ニモ尤ナル御意見デ
アル、併ナガラ先ツ只今ノ案ニ依²テ實行ヲ
致シテ見タ上ニ於テ、此考ト云フモノハ、
今後保險會社其他ノ關係ニ付テ十分考慮ヲ
致シテ、實現ヲ期シタトイ思フト云フコト
ノ答辯デアリマシタ。

其他溝洲事件費ニ聯繫ヲ致シテ、事件費
將來ノ見込、溝洲新國家ノ將來、或ハ日清、

日露其他ノ戰費トノ關係ニ付テハ、祕密
會ニ於テ詳細ナル應答ガアツタ譯デアリマ
ス、斯ノ如ク致シマシテ、案ハ溝場一致之
ヲ可決致シタ譯デアリマス、之ヲ御報告申
上²テマス(拍手)

○總理ハドウシタ「ト呼フ者アリ)
上²テマス(拍手)

○小谷節夫君(私ハ只今上程セラレテ居リ
マスル、昭和七年法律第一號中改正法律
案、即チ溝洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公
債發行ノ件外五件ニ對シテ贊成ノ意ヲ表
シ、政府提案通り、即チ只今ノ委員長報告
通り、可決確定セラレントコトヲ望ム者デア
リマス、私ハ曾テ此演壇ニ於テ、僅ニ五百
萬圓ノ事業公債ノ問題ニ付テ、反對黨ノ
非常ナル惡罵嘲笑ノ裡ニ、二十分間ノ議論ヲ
費シタコトガゴザイマス、併ナガラ今回ノ
ト云フコトデアリマシタ。

又國債ノ優遇案ニ關シテ今一つノ質問
(總理ハドウシタ「ト呼フ者アリ)標準發行
價格又ハ取得ノ際ニ於ケル時價ガ額面額ト
異²テ居ル場合ニ於テハ、其差額ヲ償還マデ
ノ期間ニ於テ割當テ、之ヲ毎期ノ價額ニ加
減ヲ致シテ評價ヲスルト云フ一項ヲ加ヘテ
ハドウデアルカ、即チ所謂均等利廻計算法
ヲ適用シテハ如何デアルカト云フ質問デア
リマシタガ、是ハ如何ニモ尤ナル御意見デ
アル、併ナガラ先ツ只今ノ案ニ依²テ實行ヲ
致シテ見タ上ニ於テ、此考ト云フモノハ、
今後保險會社其他ノ關係ニ付テ十分考慮ヲ
致シテ、實現ヲ期シタトイ思フト云フコト
ノ答辯デアリマシタ。

其他溝洲事件費ニ聯繫ヲ致シテ、事件費
將來ノ見込、溝洲新國家ノ將來、或ハ日清、

日露其他ノ戰費トノ關係ニ付テハ、祕密
會ニ於テ詳細ナル應答ガアツタ譯デアリマ
ス、斯ノ如ク致シマシテ、案ハ溝場一致之
ヲ可決致シタ譯デアリマス、之ヲ御報告申
上²テマス(拍手)

○小谷節夫君(私ハ只今上程セラレテ居リ
マスル、昭和七年法律第一號中改正法律
案、即チ溝洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公
債發行ノ件外五件ニ對シテ贊成ノ意ヲ表
シ、政府提案通り、即チ只今ノ委員長報告
通り、可決確定セラレントコトヲ望ム者デア
リマス、私ハ曾テ此演壇ニ於テ、僅ニ五百
萬圓ノ事業公債ノ問題ニ付テ、反對黨ノ
非常ナル惡罵嘲笑ノ裡ニ、二十分間ノ議論ヲ
費シタコトガゴザイマス、併ナガラ今回ノ
ト云フコトデアリマシタ。

又國債ノ優遇案ニ關シテ今一つノ質問
(總理ハドウシタ「ト呼フ者アリ)標準發行
價格又ハ取得ノ際ニ於ケル時價ガ額面額ト
異²テ居ル場合ニ於テハ、其差額ヲ償還マデ
ノ期間ニ於テ割當テ、之ヲ毎期ノ價額ニ加
減ヲ致シテ評價ヲスルト云フ一項ヲ加ヘテ
ハドウデアルカ、即チ所謂均等利廻計算法
ヲ適用シテハ如何デアルカト云フ質問デア
リマシタガ、是ハ如何ニモ尤ナル御意見デ
アル、併ナガラ先ツ只今ノ案ニ依²テ實行ヲ
致シテ見タ上ニ於テ、此考ト云フモノハ、
今後保險會社其他ノ關係ニ付テ十分考慮ヲ
致シテ、實現ヲ期シタトイ思フト云フコト
ノ答辯デアリマシタ。

其他溝洲事件費ニ聯繫ヲ致シテ、事件費
將來ノ見込、溝洲新國家ノ將來、或ハ日清、

日露其他ノ戰費トノ關係ニ付テハ、祕密
會ニ於テ詳細ナル應答ガアツタ譯デアリマ
ス、斯ノ如ク致シマシテ、案ハ溝場一致之
ヲ可決致シタ譯デアリマス、之ヲ御報告申
上²テマス(拍手)

○西脇君(西脇晉君登壇)
現内閣ハ、昭和七年度ニ於キ
案、即チ溝洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公
債發行ノ件外五件ニ對シテ贊成ノ意ヲ表
シ、政府提案通り、即チ只今ノ委員長報告
通り、可決確定セラレントコトヲ望ム者デア
リマス、私ハ曾テ此演壇ニ於テ、僅ニ五百
萬圓ノ事業公債ノ問題ニ付テ、反對黨ノ
非常ナル惡罵嘲笑ノ裡ニ、二十分間ノ議論ヲ
費シタコトガゴザイマス、併ナガラ今回ノ
ト云フコトデアリマシタ。

又國債ノ優遇案ニ關シテ今一つノ質問
(總理ハドウシタ「ト呼フ者アリ)標準發行
價格又ハ取得ノ際ニ於ケル時價ガ額面額ト
異²テ居ル場合ニ於テハ、其差額ヲ償還マデ
ノ期間ニ於テ割當テ、之ヲ毎期ノ價額ニ加
減ヲ致シテ評價ヲスルト云フ一項ヲ加ヘテ
ハドウデアルカ、即チ所謂均等利廻計算法
ヲ適用シテハ如何デアルカト云フ質問デア
リマシタガ、是ハ如何ニモ尤ナル御意見デ
アル、併ナガラ先ツ只今ノ案ニ依²テ實行ヲ
致シテ見タ上ニ於テ、此考ト云フモノハ、
今後保險會社其他ノ關係ニ付テ十分考慮ヲ
致シテ、實現ヲ期シタトイ思フト云フコト
ノ答辯デアリマシタ。

其他溝洲事件費ニ聯繫ヲ致シテ、事件費
將來ノ見込、溝洲新國家ノ將來、或ハ日清、

ヒナガラモ、政府ノ處置ガ當ヲ得ナケレバ、
多クハ軟弱外交ニ依²テ日本ノ國威ヲ失墜
シ、國權ヲ傷ケテ居ルコト夥シノデア
リマス(拍手)私ハ此際政府當局ハ、必ズ國
民ガ斯ノ如ク苦シニ居リマスル際ニ、斯ウ
云フヤウナ問題ニ對シテ協賛ヲ與ヘルト云
フ、其眞意ヲ諒解セラレテ、溝洲國ニ對シ
テモ、或ハ中華民國ニ對シテモ、立派ニ日
リマス、併シ他ノ國務大臣ハ御覽ノ通り、
多數列席セラレテ居リマスルカラ、此儘審
議ヲ進メラレントコトヲ望ミマス——是ヨリ
討論ニ入りマス、小谷節夫君

(小谷節夫君登壇)

○西脇君(西脇晉君登壇)
現内閣ハ、昭和七年度ニ於キ
案、即チ溝洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公
債發行ノ件外五件ニ對シテ贊成ノ意ヲ表
シ、政府提案通り、即チ只今ノ委員長報告
通り、可決確定セラレントコトヲ望ム者デア
リマス、私ハ曾テ此演壇ニ於テ、僅ニ五百
萬圓ノ事業公債ノ問題ニ付テ、反對黨ノ
非常ナル惡罵嘲笑ノ裡ニ、二十分間ノ議論ヲ
費シタコトガゴザイマス、併ナガラ今回ノ
ト云フコトデアリマシタ。

又國債ノ優遇案ニ關シテ今一つノ質問
(總理ハドウシタ「ト呼フ者アリ)標準發行
價格又ハ取得ノ際ニ於ケル時價ガ額面額ト
異²テ居ル場合ニ於テハ、其差額ヲ償還マデ
ノ期間ニ於テ割當テ、之ヲ毎期ノ價額ニ加
減ヲ致シテ評價ヲスルト云フ一項ヲ加ヘテ
ハドウデアルカ、即チ所謂均等利廻計算法
ヲ適用シテハ如何デアルカト云フ質問デア
リマシタガ、是ハ如何ニモ尤ナル御意見デ
アル、併ナガラ先ツ只今ノ案ニ依²テ實行ヲ
致シテ見タ上ニ於テ、此考ト云フモノハ、
今後保險會社其他ノ關係ニ付テ十分考慮ヲ
致シテ、實現ヲ期シタトイ思フト云フコト
ノ答辯デアリマシタ。

其他溝洲事件費ニ聯繫ヲ致シテ、事件費
將來ノ見込、溝洲新國家ノ將來、或ハ日清、

ヒナガラモ、政府ノ處置ガ當ヲ得ナケレバ、
多クハ軟弱外交ニ依²テ日本ノ國威ヲ失墜
シ、國權ヲ傷ケテ居ルコト夥シノデア
リマス(拍手)私ハ此際政府當局ハ、必ズ國
民ガ斯ノ如ク苦シニ居リマスル際ニ、斯ウ
云フヤウナ問題ニ對シテ協賛ヲ與ヘルト云
フ、其眞意ヲ諒解セラレテ、溝洲國ニ對シ
テモ、或ハ中華民國ニ對シテモ、立派ニ日
リマス、併シ他ノ國務大臣ハ御覽ノ通り、
多數列席セラレテ居リマスルカラ、此儘審
議ヲ進メラレントコトヲ望ミマス——是ヨリ
討論ニ入りマス、小谷節夫君

(小谷節夫君登壇)

○西脇君(西脇晉君登壇)
現内閣ハ、昭和七年度ニ於キ
案、即チ溝洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公
債發行ノ件外五件ニ對シテ贊成ノ意ヲ表
シ、政府提案通り、即チ只今ノ委員長報告
通り、可決確定セラレントコトヲ望ム者デア
リマス、私ハ曾テ此演壇ニ於テ、僅ニ五百
萬圓ノ事業公債ノ問題ニ付テ、反對黨ノ
非常ナル惡罵嘲笑ノ裡ニ、二十分間ノ議論ヲ
費シタコトガゴザイマス、併ナガラ今回ノ
ト云フコトデアリマシタ。

又國債ノ優遇案ニ關シテ今一つノ質問
(總理ハドウシタ「ト呼フ者アリ)標準發行
價格又ハ取得ノ際ニ於ケル時價ガ額面額ト
異²テ居ル場合ニ於テハ、其差額ヲ償還マデ
ノ期間ニ於テ割當テ、之ヲ毎期ノ價額ニ加
減ヲ致シテ評價ヲスルト云フ一項ヲ加ヘテ
ハドウデアルカ、即チ所謂均等利廻計算法
ヲ適用シテハ如何デアルカト云フ質問デア
リマシタガ、是ハ如何ニモ尤ナル御意見デ
アル、併ナガラ先ツ只今ノ案ニ依²テ實行ヲ
致シテ見タ上ニ於テ、此考ト云フモノハ、
今後保險會社其他ノ關係ニ付テ十分考慮ヲ
致シテ、實現ヲ期シタトイ思フト云フコト
ノ答辯デアリマシタ。

其他溝洲事件費ニ聯繫ヲ致シテ、事件費
將來ノ見込、溝洲新國家ノ將來、或ハ日清、

| | |
|--|--|
| ○議長(秋田清君) 静肅ニシテ ○西脇曾君(續) 其意味ヲ以チマシテ、減 債基金以外ノ公債ニ關スル法律案ニ對シマ シテハ、全部賛成スル次第デゴザイマス、 此意味ニ於キマシテ原案ニ賛成致シマス ○議長(秋田清君) 討論ハ終局致シマシタ、 茲ニ上程セル六案ノ委員長報告ハ何レモ可 決デアリマスルカラ、一括シテ第一讀會ハ開 クヤ否ヤヲ御諸リ致シマス、六案ノ第二讀 會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ | ○上田孝吉君 議事日程追加ノ緊急動議ヲ 提出致シマス、即チ此際政府提出絲價安定 融資擔保生絲買收法案及絲價安定融資損失 善後處理法案ヲ一括シテ議題トシテ、委員 長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコト ヲ望ミマス |
| | |
| | |

| | |
|---|---|
| ○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマ ス、仍チ日程ハ追加セラレマシタ、絲價安 定融資擔保生絲買收法案、絲價安定融資損 失善後處理法案、右ヲ一括シテ第一讀會 ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマ ス――委員長宮古啓三郎君 | ○議長(秋田清君) 御異議ナシト認メマ ス、右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 |
| | |

| | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議 ナシト呼フ者アリ | ○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議 ナシト呼フ者アリ |
| | |
| | |

| | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| ○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議 ナシト呼フ者アリ | ○議長(秋田清君) 上田君ノ動議ニ御異議 ナシト呼フ者アリ |
| | |
| | |

| | |
|---|---|
| ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 | ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 |
| | |
| | |

| | |
|---|---|
| ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 | ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 |
| | |
| | |

| | |
|---|---|
| ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 | ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 |
| | |
| | |

| | |
|---|---|
| ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 | ○議長(秋田清君) 第二讀會(確定議) 右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致 候此段及報告候也 |
|---|---|

